国際ロータリー第2620地区
2006～2007年度　ガバナー事務所
〒400-0032
甲府市中央4-12-21　甲府法人会館内
Ｔｅｌ 055-225-2620
Ｆａｘ 055-225-2621
E-mail：06-07g.inoue@ri2620.gr.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.ri2620.gr.jp

LEAD THE WAY

率先しよう

国際ロータリー第 2620 地区

2005～2006 年度

地区協議会

分科会報告書

2006 年 4 月 16 日（日）

会　場　アピオ甲府

ホスト　甲府南ロータリークラブ

地区協議会報告書の作成にあたって

2005 ～ 2006 年度
国際ロータリー第 2620 地区
地区協議会実行委員会委員長
峰　岸　悦　郎

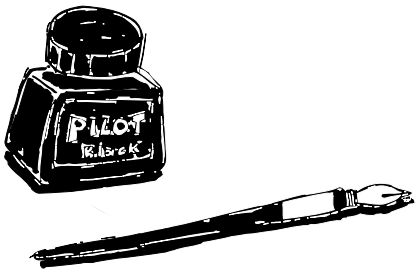
本年 4 月 16 日開催の地区協議会には、多数の会員の皆様方の御参加をいただき盛会裡に終了することができました。改めて心から御礼申し上げます。

早いもので間もなくロータリーの新年度が始まろうとしております。実行委員会としては、地区協議会全体会議においてお約束致しましたとおり、新年度に間に合うよう報告書の作成の準備を進めて参りました。実行委員会の当初の計画では、報告書は地区協議会で御協議をいただいた内容や、疑問点、地区、分区、各クラブへの要望事項等についておまとめいただき、詳細な資料等がある場合には、地区 IT 委員会の御協力をいただき、WEB 上に掲載するということで作業を進めて参りました。思いは、地区協議会で協議をいただいた内容をコンパクトな形で各クラブはじめ関係各位の皆様にお伝えしたい、あわせて経費の節約をしたい等の思いからでした。しかしながら、各分科会から御提出をいただきました報告書の内容は、実行委員会が指定させていただきました作成マニュアルではまとめにくかったと思え、各分科会の報告書はバラバラなものとなってしまいました。報告書作成について御苦労をおかけしてしまいましたことは実行委員会としては深く反省しているところですし、また報告書自体、体裁の悪いものとなってしまったことは誠に申し訳なく、お詫び申し上げる次第です。

また、今回の報告書は、従来の報告書とは異なり、地区協議会当日配布をさせていただきました挨拶文や資料と重複するものについては実行委員会の独断で割愛させていただきました。このことについても御了承いただきたいと思います。

報告書作成の意義は、地区協議会の会議の内容を記録するとともに、協議された事項を各クラブの運営等に役立てていただくことにあります。各クラブ、各会員の皆様には本報告書を十分に御利用いただき、次年度を充実した実りあるロータリー年度にしていただくことをお願い申し上げ、本報告書作成、配布に際しての御挨拶とさせていただきます。

敬具



2005 ～ 2006 年度　国際ロータリー第 2620 地区

地区協議会プログラム

期日：2006 年４月 16 日（日）　会場：アピオ甲府

10：00 ～ 10：55　登録・受付

本　会　議			
	司会	ホストクラブ幹事	遠藤　孝
11：00 ～ 12：15　開会の点鐘		ガバナー	鈴木　亀雄
国歌斉唱		ホストクラブ　ソングリーダー	平野　敏郎
ロータリーソング『奉仕の理想』			
開会の言葉		実行委員長	峰岸　悦郎
歓迎の言葉		ホストクラブ会長	中込　豊秋
ガバナー挨拶		ガバナー	鈴木　亀雄
ガバナーエレクト・ノミニー紹介		ガバナー	鈴木　亀雄
		ガバナーエレクト	井上　雅雄
		ガバナーノミニー	道部　秉
		ガバナーノミニー	牧田　静二
パストガバナー紹介		ガバナー	鈴木　亀雄
次期ガバナー補佐紹介		ガバナーエレクト	井上　雅雄
ガバナーエレクト「次年度方針説明」		ガバナーエレクト	井上　雅雄
「米山梅吉記念館」について		パストガバナー	内藤　成雄
「ロータリーの友」について		ロータリーの友常任委員	小林聰一郎
2004 － 2005 年度　100%「財団の友」会員クラブ表彰			
		ガバナー	鈴木　亀雄
諸事お知らせ		副実行委員長	氏原　勲

12：15 ～ 13：00　昼食・休憩【本会議会場から分科会会場（昼食会場）へ移動】

分　科　会			
13：00 ～ 14：30　分科会			
14：30 ～ 14：50　移動・休憩【全体会議会場へ】			
全　体　会　議			
14：50 ～ 16：30　研修リーダー挨拶		パストガバナー	佐藤　進
分科会リーダー報告			各分科会リーダー
ガバナー挨拶		ガバナー	鈴木　亀雄
次年度ホストクラブ発表		ガバナー	鈴木　亀雄
次年度ホストクラブ挨拶		沼津北ＲＣ会長エレクト	伊東　哲夫
ガバナーエレクト挨拶		ガバナーエレクト	井上　雅雄
閉会の言葉		次期地区副幹事	内田　清
閉会の点鐘		ガバナー	鈴木　亀雄

ガバナー補佐・会長部会

アドバイザー・ガバナー	鈴木　亀雄（清水北）
リーダー・ガバナーエレクト	井上　雅雄（甲府南）
サブリーダー・ガバナーノミニー	道部　　秉（沼津北）
サブリーダー・ガバナーノミニー	牧田　静二（静　岡）

報告者名：井上　雅雄　（ガバナーエレクト）

分科会での協議事項

①地区目標・地区予算案承認
②地区リーダーシップ・プランについて
③クラブ・リーダーシップ・プランについて
④会員増強・退会防止について
⑤財団寄付について
⑥その他

三番目の地区目標・地区予算案承認の件ですが、PETS 終了後４週間たったら地区協議会を開きなさいというのが手続要覧に書いてございます。2005 － ’06 年度の PETS と地区協の間が４週間しかございませんでしたので、この地区目標と予算案を各クラブに事前にお送りしてあります。今年度の理事会、次年度の会長さんは役員として理事会にご参加のことと存じます。ここでご承認をいただいて 2006 － ’07 年度の目標、予算案がスタートということですので、よろしくお願いをしたいと存じます。

地区目標は７頁にございます。RI の人頭分担金が今年から一人 47 ドルになります。以後はこれ以上上がらないということだそうでございます。規定審議会年次負担金というのはいままでどおり一人１ドル、地区資金の負担金もいままでと同じ年 18,600 円を頂戴するということにしたいと思います。

地区目標ですが、会員増強 60 名以上のクラブがプラス３、40 から 59 がプラス２、39 以下をプラス１ということにさせていただきます。

ロータリー財団の寄付を第 2620 地区はこれまでずっとお一人 120 ドルという数字でした。RI では、１人毎年 100 ドルをと呼びかけています。私も 3,700 人のロータリアンでお一人おひとりがぜひ 100 ドル以上のご寄付をいただきたい。そういう意味で RI で出しております 100 ドルという数字にここで合わせていただきます。そして、３番のベネファクター各クラブ１名以上というのも、これはいままでと同じ目標でございます。米山記念奨学会の寄付の１人 12,000 円も同じです。GSE につきましては相手地区が第 4430 地区、ブラジル・サンパウロです。受け入れが 2006 年の 11 月、派遣が 2007 年の５月ということで、これはサンディエゴで第 4430 地区のガバナーと会いまして合意しておりますし、RI にも届けがしてあります。

地区活性化援助金ですが、これはいままでもお一人 2,000 円頂戴しております。いまの地区の財政から言って、事業はやらないということに決めたいと思います。そのかわり活性化援助金の 2,000 円を使わせていただいて、米山梅吉記念館の補助金に 450 万円、青少年交換の補助金ですが、継続してクラブに補助したいと思います。

IT システム化補助金ですが、いま、すべてのクラブにパソコンが行き渡るようになりました。今

度はパソコン上でメールだけでなく、いろんな情報を流したいということで、そのシステム化についての経費 100 万円近いものをこれから取らせていただきたい。第１歩として、きょうも 11 分科会が行われておりますが、それを録音しまして、各分科会のリーダーが報告書としてまとめ、まとめたものを Web にのせる、ということで第 2620 地区の HP に今日の地区協の分科会の記録、参考になるものを載せてみなさまがたに HP まで飛んできていただきたいと思います。

富士山環境美化には歴代ガバナーがお力を注がれました。いま静岡、山梨、神奈川という三県の知事が世界文化遺産の登録のために立ち上がっておりますので、私どもは行政にお手伝いをする、富士山を世界の文化遺産にというムード造りは充分私どもも出来ると思っております。以上が地区目標です。

つぎのページに地区予算がございます。地区予算も 3,700 人で決めさせていただきました。予算は 3,700 人で設定しました。収入が全部で 80,021,000 円でございます。支出はもちろん同額です。地区資金事業会計が 29,150,000 円です。また地区資金一般会計が 34,221,000 円です。

特別事業基金会計の収支はほとんど動いておりません。15,409,580 円はそのまま動かないと思います。

以上が地区の予算でございます。

地区リーダーシッププランについてでございますが、資料をお渡ししてあります。大石隆久ガバナーが地区リーダーシッププランを取り入れられました。その後手続要覧が変わりましたので、それを直させて、諮問委員会でもご承認をいただいて、きょうみなさまにお配りしました。一番肝心なところはガバナー補佐の選考基準です。ガバナー及びガバナーエレクトは現ガバナー補佐の意見を参考にして、つぎの選考基準にしたがい分区内のローテーションやクラブ内の年功序列など情実に捉われることなく、ガバナー補佐にふさわしい適任者を選考しなければならないと決められています。しかしながら、現状第 2620 地区 11 分区のガバナー補佐は輪番制を取っているのがほとんどとなっています。パストガバナーのご意見を伺いますと、分区代理の時代の輪番制は、これはあってもよかったかもしれない。ただガバナー補佐は分区代理と違って権限が増えております。その事で輪番制はいかがなものかと言う声が出ております。これを変えることには難しさがありまして、強引にお止めいただきたいとは言えませんが、こういう状況、輪番制を取っていない所がかなりあるということを考えて、今後ご検討をいただきたいと思います。

もし分区内でガバナー補佐に事故があった時に、あとをどうするかということを分区内で内規運営規約を決めておいた方がいいのではないかという意見が分区内であったけれど、ガバナーエレクトはどう思うかというご質問をいただきました。これは、ガバナー補佐の任命権はガバナーエレクトにあるわけですから、地区のクラブの会長が選挙して選んだのではないということを認識いただきますと、万が一事故があった時はガバナーと地区の会長さん方とご相談のうえ決めていくのが順当だと思います。因みにガバナーに事故があったことは何回かありまして、その時には先輩ガバナーが残りの任期をガバナーとして過ごされたことがありました。それに倣うということがあるかもしれませんし、会長のみなさんのご意見を聞きながら決めるということになるかと思います。

ここで大石隆久パストガバナーがお作りになった、文章に、クラブアッセンブリーはガバナー補佐がやって欲しい、ガバナーの仕事を少しでも軽減するために当地区はすべてそういう形で動いておりますので、ご認識をいただくためにもう一度お読みいただきたいということで資料をよせていただきました。

もう一つ、第 2620 地区では、ガバナー補佐がすべて１年でお辞めになっているということでございます。これは手続要覧 31 頁のガバナー補佐の任務の中で任期がロータリー年度の１期１年、ただし３期３年に限り再任を妨げないと書いてあります。そうかと言って、ここにおいでの方が来年もとはおっしゃらないとは思いますが、そういうことがあってもいいということですから、今後の参考にしていただきたいと思います。そこがいままでの分区代理とは違うところであり、地区リーダーシッププランの一番の柱ですので、そのようにお願いしたい。

そして、地区に委員会があります。いまは地区チーム研修セミナーで委員の方々は研修されます。この委員の方はすべてが 84 ロータリークラブの事業計画、事業の展開に協力するのが最大の仕事だと思います。さきにも申し上げましたが地区では事業をいたしません。クラブがロータリー活動をしていただくだけです。きょう、小林総一郎さんが Think Glovally Act Locally という言葉を言われました。世界的規模で考えて地域で行動をおこそうというのが、ロータリーにいま課せられた任務だと思っております。これは地区チーム研修セミナーの冊子に書かせていただきましたけれど、ぜひその辺をご認識いただいて、地区の委員会の活動をして欲しいと思います。

地区リーダーシッププランについて手続要覧の 30 頁に地区リーダーシッププラン DLP ということが書いてあります。すべての地区は理事会が概要をまとめた地区リーダーシッププランの構成を遵守してリーダーシッププランを確立するよう要請されるーこれはロータリー章典にあるわけです。そして、義務付けられている地区リーダーシッププランの構成はつぎのようなものである。ガバナー補佐、地区研修リーダー、各種地区委員会といった共通の用語、ガバナー補佐、地区研修リーダー、地区委員会委員の明確な責務、地区内の指導力の継続を確実にする地区委員会、ガバナーが委任することの出来ない任務や責務を明確に記述したもの、これは地区レベル、クラブレベルでロータリーを強化する構成でクラブへの支援をより迅速により綿密にし、より多くの地区指導者を練達に導き、地区ガバナー候補者の裾野を広げ、財団や地区活動への参加を活性化し、100 以上のクラブを効果的に運営する能力を身につけ、地区内でより多くの意思の疎通を図る意図を持つものであるーと書いてございます。

つぎにクラブリーダーシッププランに入らせていただきます。先日の PETS の折に、クラブリーダーシッププランのブルーのマニュアルを差し上げたと思います。このクラブリーダーシッププランの最大の効果は、長期目標をまずクラブとして立てて欲しい。そして、その長期目標に沿って毎年毎年代わられた会長さんが、ご自分の１年の目標を立てて、事業計画を進めて欲しい。その中でロータリー財団と会員増強退会防止、それ以外にクラブを運営するための組織、もう一つはロータリーの事業を広報する組織、それからもう一つが一番重要な奉仕プロジェクトです。その奉仕プロジェクトの中で、私のガバナーとしての理念として職業奉仕を上げさせていただきました。私は職業奉仕を基盤としたロータリー活動と言うのは絶対終焉を迎えることはないと考えておりますので、今回もそれを一つの理念といたしました。クラブ協議会というのはすべて 84 ロータリークラブがおやりになっていると思いますが、全員参加のクラブ協議会というのをおやりになっているクラブがいくつありましょうか。ちょっとお手をお挙げ下さい。49 クラブということは、そういうクラブの方が多いということになりますが、この全員参加のクラブ協議会というのは、先日お渡ししたクラブリーダーシッププランの３ページのプランの施行というところがありますが、その３というところに計画過程に会員を関与させ、クラブ協議会を実施し、ロータリーの活動に関する情報を随時伝える、クラブ協議会の開催によってクラブの全会員が最新情報を把握し、クラブ活動に参加していると実感することが出来るようになります。多くのクラブでは会員全員がクラブに関する決定事項を協議するための機会として、また委員会が活動を報告するための機会として協議会を活用していますーと書いてあります。これは非常に大勢の会員がいるクラブでは大変だと思いますが、クラブリーダーシッププランを採用していく中で非常に重要なことは、このクラブアッセンブリーだと思っております。そして、ロータリアンが出来るだけロータリーの事業に参加をしていただく、そしてロータリークラブの良さ、ご自分でそれをやることの意義を勉強していただくことが重要ではないかと考えておりますので、もう一度冊子をお読みいただき、会員数の少ないクラブにありましては、奉仕プロジェクトを優先順位をつけてお決めになって結構だと思います。この年はこれに集中をしていくということが必要ではないかと思います。その中で広報が活躍していただければ、ロータリークラブに入りたいという人が出てくるはずだと思います。私たちが業界または専門職の中で真に選ばれた１人であるという自負は絶対に必要だと思っております。3,700 人のメンバーがそれを自覚していただくことが今後のロータリー活動につながるものだと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

静岡第２分区の岸本ガバナー補佐から質問があり、井上年度は周知の年で、道部年度は実施の年であると云う説明が、PETS の時にあったが、理解されているようで理解されていないようであるから、もう一度説明してもらいたいと言うものでした。

私と道部ノミニーの間ではいろいろとお話しをしております。今このクラブリーダーシッププランを即 84 クラブ実施してくださいと言うのはなかなか無謀なことだなという風に私も道部ノミニーも思っております。RI が２，３年後にはおそらく必ずややれと言うようになるだろうというのが、この間のサンディエゴでの話でしたから、そうなる前に私たちが一応の知識を持っていれば慌てなくて済むかなと考えております。道部ノミニーとうまく連携を保ちながら充分考えておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

道部　クラブリーダーシッププランというのは大変悩ましい問題でありまして、これからいろんな資料を見ていただくと判りますが、すべてクラブリーダーシッププランに向けた資料作りなんですね。ですからやらざるを得ない。井上ガバナーエレクトとの連絡ですが、私も今月は４回、５回ほど甲府に来ておりまして、連絡は密に取りながらやっていきたいと思っております。クラブリーダーシッププランが最初に日本に上がってきたのは 2004 年の 11 月ですので、井上年度に入りましてこれを取り上げるという形になってきています。もちろん１年だけでは出来ませんけれど、これから公式訪問とか、いろんな場で井上ガバナーエレクトが各クラブにいきましてクラブリーダーシッププランを周知していただけると思います。そして、私としては９月ころに各クラブにアンケートを、まず知っているかしらないかから始めまして、それを見まして、まだおやりになっていないクラブは、むしろ、こっちから積極的に出ていって各クラブに説明申し上げ、実施をしていただけるよう要請する。

もちろん私が出かけていくのは、いっぱいであった場合物理的に無理ですから、このつぎガバナーエレクトになっていただく方に早めにご説明申し上げて各クラブに要請していただくという形でやっていって、私の年度には大体のクラブが運用していただけるようにしたいと思います。と申しますのは、やっている所とやっていない所が出来てしまうと、地区でどんな組織を作っていいのかという問題があります。地区の組織を作る上で、非常に重要な問題になりますので、その辺をにらみながら進めていきたいと思います。大雑把にはそんなふうに考えております。

井上　よろしいでしょうか。道部ノミニーがちょっとおっしゃいました地区の組織ですが、今年私の年度の変った組織が三つございます。先ほど地区目標のところで申し上げました IT のシステム化というのがございますが、今年度またクラブ奉仕委員会に入っておりました IT の推進委員会という小委員会をガバナー事務所の直結にさせていただきました。それを IT 推進委員会とさせていただきました。もう一つは同じ委員会にありました広報雑誌委員会というのが独立をして、広報･ロータリー情報委員会という名前でほかの委員会と同列にさせていただきました。ロータリークラブの活動の中で一番重要なのはロータリー情報だと思いますから、そこへ設けさせていただいて、その委員会にはいま、真剣にクラブリーダーシッププランを考えていただいております。

もう一つは研修委員会でございます。この委員会は２人のパストガバナーで構成していただきます。ご存知かと思いますが、すべての委員会の委員長はパストガバナーではありません。しかし、パストガバナーが委員長をお勤めいただく委員会がこの研修委員会ともう一つロータリー財団委員会でございます。これは RI からの要望で決められております。この委員会につきましてはぜひ会長になるみなさんにはご認識をいただきたいと思います。クラブリーダーシッププランについては私と道部ノミニーとで勉強をしまして、みなさまにわかりやすいように努力しますのでよろしくお願いをしたいと思います。

村松　藤枝クラブの村松です。いまのお話ですとクラブ細則を変えなければいけないということになりますけれど、そうしますと、例会で変えていいことになっていますが、時期的にはいつがよろしいのでしょうか。

井上　それをかなり考慮されて、道部ノミニーはアンケートをお取りになったり、12 月までにある程度方針をお立てになるというお考えだと思います。

道部　推奨ロータリークラブ細則というのが新しく出ておりますが、その中に５つのロータリーの常任委員会を設けなさいというのがあり、これに従って細則を採用していただくことになると思います。細則は各クラブ自由ですから、そこを変えていただくことになると思います。次年度の場合は2007年１月から計画して７月を迎えるわけですから、その間に細則をお決めになるようになるのではないかと思っておりますが。

立川　山梨第２分区の立川でございますが、井上年度の時に新しい組織替えはやっていてもいいわけですね。その場合、新しくやっていく場合はPETSの時にいただいた細則の中の委員会がございますね、それの中の委員会に各クラブともした方がいいんですか。そうするとその委員会に地区の指導組織からどなたか来て指導してくれるという格好で進めていっていいんですか。やっかいだから、いままで通りでもいいのかなあという意見もクラブの中にあるんですよ。そうは言っても、PETSの話を聞いているわけですから、それでいいやとも言えないわけで。新しい形でやってみようかなと、そんな気持ちでいる、そんな格好でよろしいでしょうか。判らない時にはご指導いただけるわけですよね。

井上　私がお願いしたいのは、地区の委員長よりもクラブの、立川さんの場合は鰍沢青柳のクラブが自主性を持っていただく、それがまず第１ですよね。地区の委員会が、それについてお手伝いできるところはします。

きょうの冊子の中に分区別の事業計画がありますね。各ガバナー補佐が大体４回くらいクラブを歩きますよね。その時にガバナー補佐に質問をする、意見を聞くということはいくらでも出来ますよ。そして、特別になにかする時にはその委員会にご連絡をいただく、それは各クラブの裁量です。

牧田　井上エレクト、道部ノミニーは実施の責任者ですからいろいろ大変だと思います。法律を改正する時に施行期日を決めて一斉に変われば、これは問題ない。けれども、ロータリーというのはそういう組織ではございませんので、やはり井上さんのおっしゃるように、まずクラブでこの問題を取り上げていただいて、ロータリーも100年も経って制度疲労も来ていますから、新しい組織にしないと、機能しない部分もあるんで、ぜひ、リーダーシッププランはみんなでやろうと、全員でやりませんと組織上問題が出てきますので、まずみんなでやろうと、きょうは会長あるいはガバナーノミニーで決意をいただいてですね、まだ２年度ございますので、その間にこのリーダーシッププランを完全に実施するという決意をまず決めていただいて、各クラブをガバナー補佐が回っておりますので、その懇談の時に細かい問題をおっしゃっていただいたら、ガバナー補佐はすぐにガバナー事務所に連絡を取ってご回答できるようになっておりますので、それを道部ノミニーのときに粛々と実施するということで充分いけるんじゃないでしょうか。本年度これからガバナー補佐、会長、まず決意を固めていただき、今年と来年とで粛々とこのプランを実施するということでどうでしょうか。

平野　静岡第７分区浜北ロータリークラブの平野と申します。PETSの時には会員数の少ないクラブがこれをやって、ほかのクラブはどうでもいいという風にお聞きしたので。これを来年あるいは再来年からやるんだということなら私どもも進めます。だが、その前に地区の組織図をまず変えて、地区の組織がこうなったから各クラブもこうしてくれと言った方が判りやすいと思います。

井上　地区の組織図は私は変えないつもりでおります。なぜかと言いますと、奉仕プロジェクト４つの中で、ひとつの奉仕プロジェクトを選ばれたとすると、地区にはすべての奉仕プロジェクトを持っていないと困りますよね。だから、いま地区の組織図を大まかに５つに分けることは無理だと思います。

クラブはこの５つ、やると決めて、全クラブがこの組織図のように進めてみる。出来るだけそうして欲しいんですが、過渡期ですからいろいろ問題があると思いますが、研究としてやっていただくのは必要だと思います。時間が10分になってしまいました。このあとの会員増強退会防止ということでお願いを申し上げます。第2620地区の会員数が3,696人くらいだと思います。過去を見ますと、2001年の７月から2002年の６月に208名減りました。2002年７月から2003年６月が157名減りました。そして、そのつぎの年82名という風に減る数が少なくなっていき、鈴木ガバナー年度はついに逆転をしてプラス61名です。景気動向と同じような感じで実際は会員数が増えております。私

どもがはじめから減る減ると考えなくて、各84クラブ１名はどうしても増やして欲しいと思います。

それから財団の寄付でございますが、PETSでも申し上げましたが、１日100円の貯金箱を作ってください。ガバナー補佐の中にもう実行している方がいらっしゃいます。クラブの会長の方で竹を切って貯金箱を作っていただいている方もおります。財団のために１日100円の貯金箱を作っていただきたい。3,700人が100円以上のご寄付をいただけるように率先していただきたい。

古屋　石和ロータリークラブの古屋と申します。PETSのときにいただきましたロータリアン必携にですね、マッチンググラントと地区補助金の説明がありました。予算の方は遡って補助金がないわけですが、今後もマッチンググラントはあるわけですが、いままで歴代の担当の方に聞きますと、地区のハードルが非常に高いと聞きまして、今後、積極的に進めていく不安がありますが、進めていく方法があるのか教えていただきたい。

井上　私の年度はぜひマッチンググラントを進めないでいただきたい。なぜかと言いますとDDFが私の年度から50％になりました。なおかつ、DDFに金利が上乗せされるんですが、RIの資金運用ミスによって赤字が出た部分を補填しておりまして、私どもの年度は１円の補助金もありません。それで財団奨学生を７人と地区補助金４万ドル取りますと、DDFがいっぱいになり、マッチンググラントに使えないとご理解いただきたい。これは毎年毎年変わりますので、私の年度のご寄付いただいたお金は３年後に返って参ります。３年後のためにやっているとご理解いただきご協力願いたい。みなさまがた会長にクラブ目標報告書式という書類がいっていると思います。これは、日をお間違えにならないようにしてガバナー事務所にご返送いただきたい。国際ロータリーの会員増強推進計画の表彰という書類をPETSの時にお渡ししてあります。これが４月15日締め切りと書いてあります。そうしましたら、今年の書類を使われて今年の会長名で出されたクラブがあります。今年の会長さんにお渡ししたのは来年の４月15日締め切りの用紙でございますから、その辺をお間違えにならないようにお願いをしたい。それから、効果的なロータリークラブの報告書というのがガバナー補佐の署名を貰って私どもの方へ集めるというのもありますので、よろしくお願いします。

これでガバナー補佐、会長部会は閉じさせていただきます。どうも長い間、ありがとうございました。

幹事部会

アドバイザー・パストガバナー	佐藤　　進（甲府西）
リーダー・次期地区幹事	菅沼　清純（甲府南）
サブリーダー・次期地区副幹事	中山　洋一（甲府南）

報告者名：中山　洋一

〔地区 IT 推進についての報告は
前田守　次期 IT 推進委員会副委員長（沼津柿田川 RC）〕

この部会は、資料の説明及び確認が主な内容ですので、特筆すべきものだけを取り上げました。
〔資料：「クラブ幹事要覧」、「クラブ運営の手引き」〕

『クラブ幹事としての責務と役割』ー佐藤アドバイザー

・幹事の任務とは、クラブを最も効率良く機能させることです。
・幹事の役割は、クラブが効果的に機能するよう常にクラブに情報を伝達することです。
・識字率向上月間が、７月から３月に変更になりました。
・手続要覧を読んで判りづらいところは、英語版が正文です。
・第１回クラブ協議会は、７月１日以前に会長エレクトが開催し、役員、理事、委員長を含む全クラブ会員が出席しなければなりません。
・任意のクラブ委員会及び小委員会の機構（CLP）について
　現在は四大奉仕委員会（クラブ、社会、職業、国際の各奉仕委員会）ですが、昨年 11 月に CLP（クラブ リーダーシップ プラン）の日本語版が出され、それによると「会員増強・退会防止」「奉仕プロジェクト」「ロータリー財団」「クラブ広報」「クラブ管理運営」の各委員会構成が推奨されています。CLP を採用する場合にはクラブ細則を改定しなければなりません。しかし、これは、あくまでも RI が推奨しているが、強制はしていません。規定審議会もまだ通っていません。小さいクラブでは CLP を採用すると、小委員会を取捨選択できるので都合が良いのではないでしょうか。

『資料の説明』ー菅沼リーダー

・幹事さんあってのクラブだという認識を持って頂きたい。地区役員は幹事さんのお手伝いという存在ですので、気軽にご相談下さい。クラブがあって地区があり、RI があるというのがロータリーの基本です。
・「効果的な RC となるための活動計画の指標」を、ガバナー補佐のサインを頂いて７月 10 日までに、必ずガバナー事務所に送付して下さい。
・出席率の計算については、ロータリー歴と会員の年齢の合計が 85 年以上で理事会が認めた場合は出席義務規定が免除され計算に含まれません。この会員以外に理事会により例会出席を免除された会員も出席率に算入すべきではありません。
・ 井上年度の地区大会は11 月 18･19 日です。１日目に「地区指導者育成セミナー」を考えています。
・入会日は入会金を納めた日です。７月１日に入会すると人頭分担金を払わなければなりません。

『地区の IT 推進化について』－前田　次期 IT 推進委員会副委員長

㈠　内容

①地区における IT 推進の経緯と現状

・2000 ～ 01 年度に OA 化検討室が発足、以来毎年逐次推進し、04 年にはパソコンのないクラブへの無償貸与を決め、これにより今年度にはインフラ面で 100％達成する予定である。

② 2006 ～ 07 年度の活動方針

・事務処理の効率化のために IT を活用する。地区のホームページに登録用フォーマットを掲載し、出席報告や地区大会の登録等に利用できるように考えている。

・イベント情報をホームページに掲載し、地区協議会報告書も WEB に掲載する。

・地区のメールアドレスの命名規約を決定した。
例えば「06-07g.inoue@ri2620.gr.jp」となるなど。

③具体的なホームページの利用法の概要説明

④ IT 利用の具体的効果について

㈡　部会への報告事項

IT 化へ移行するに当たり、不安を抱いているクラブがある。

㈢　要望事項

・ホームページが更新された事をメールで知らせてほしい。

・地区からのメールは開封確認付きで送信し、開封通知メールが届いていないクラブをチェックしてフォローをしてほしい。
セキュリティーの知識が少ないのでウイルス・ワーム対策ソフトの配布や指導をしてほしい。

・OpenOffice ダウンロードサイトリンク

・クラブ運営の実務で使えるソフトウェアを提供もしくは教えてほしい。

・ガバナー事務所が楽になるだけではないのか。クラブへのメリットを指導して。

・クラブ報告をインターネットと従来どおりの両方を選択したい。

・個人情報は大丈夫か？
情報セキュリティポリシーの整備
地区としてどこまでの情報をインターネットで利用するかを規定する
運用マニュアルの作成
暗号化（https）への対応

『質疑応答と要望』

Q.　三島 RC　山岡幹事

①地区大会一日目に、指導者育成セミナーを予定しているそうですが、予算組の関係上どんな会員が参加するのか早めに決めて頂きたい。

②道部エレクトが 10 月頃 CLP のアンケートをとるとのことですが、次年度の地区の組織を変えるかどうか、早めに判った方が良いと思う。地区として早く決めてもらった方が、クラブでも動きやすいと思う。

A.　菅沼リーダー

①指導者育成セミナーは、会長・幹事と在籍３年以上で大変ロータリーに興味のある方、又はベテランの方を何名か出して頂きたい。登録料はまだ考えていないが、予算組はそんなに必要ないと思う。

② CLP に対応した地区組織については、RI の流れはこの２～３年の内に新組織に移行していくのではないかと思う。井上年度はほぼ例年通りだが、広報ロータリー情報委員会を新設した。地区の組織によってクラブの組織を変える必要は無い。道部年度はクラブの動向を見ながら、地区の組織も変えるのではないかと思う。

A. 佐藤アドバイザー

②地区ではクラブが CLP に変えても困らない組織になっている。地区がこの委員会だけということは決められない。クラブによって小さく絞り込むクラブもあれば、大きいクラブでは今までのように多くの委員会を持つこともある訳だから。

Q. 磐田 RC　村上幹事

①次期のクラブ細則を変更したいが、提案するのは現会長か、次期会長か？

②現在は１人２役でやっている。１人１役にしたいがどちらが良いか？

A. 菅沼リーダー

①現執行部です。

②クラブの事情や個人の能力にもよると思う。フレキシブルに考えて欲しい。

クラブ奉仕・会員増強部会

アドバイザー・パストガバナー	渡邉　守人（甲府南）
リーダー・次期クラブ奉仕委員長	井上　龍朗（清水北）
リーダー・次期広報・ロータリー情報委員長	金丸　康信（甲　府）
サブリーダー・次期拡大・増強委員長	原田　道子（パワー浜松）
サブリーダー・次期広報・ロータリー情報副委員長	佐々木雄三（浜　松）

報告者名：井上龍朗（次期クラブ奉仕委員長）
原田道子（次期会員増強委員長）
金丸康信（次期広報・ロータリー情報委員長）

クラブ奉仕・・・クラブ奉仕がやるべきことについて、具体的には

1．クラブ例会に出席すること
2．クラブの親睦に加わること
3．クラブのプログラムに参加すること
4．委員になること
5．理事を務めること
6．会費を払うこと
7．ＩＭ、地区協議会、地区大会などに出席すること等々、各委員長がアイディアを出して肉付けをして会員を指導してください。

クラブ奉仕が円滑に機能すれば、退会者も無くなるであろうし、増強にも弾みがつくと思います。

会員増強

2005 年７月 1 日現在会員数　3,632 名
2006 年２月 28 日現在　3,693 名

	通算増	通算減	純増
全体	167 名	106 名	61 名
静岡	126 名	73 名	53 名
山梨	41 名	33 名	8 名

1．佐藤ガバナー年度にレディースプログラムを立ち上げ、先輩女性会員が地区内を卓話してまわったが、そのおかげで昨年７月末女性会員は 115 名になった。７月の会員増強退会防止セミナーで、寸劇をやり、好評を博した。各クラブにシナリオを配り、クラブでの上演をお願いしたが、２－３％のクラブがやってくれたようです。
　クラブに持ち帰ってやってみると、いろいろ気づくことがあります。まだ、やっていないクラブは是非やってください。

2．2620 地区では、年々会員が減少しています。2000 年から 2005 年まで、毎年１クラブ１人強ずつ減少している勘定になります。

大幅に会員が増加しているクラブも、勿論あります。こういうクラブは、多分会員増強のノウハウをもっていると思います。他のクラブにも参考になると思うので、成功例の発表会をもちたいと計画しています。
日程　2006年7月29日（土）　　時間未定　　場所　甲府アピオ

3．今年度会員増強に関するアンケート調査を実施しました。結果を集計していますが、大変参考になるものがあります。この結果報告も同日行います。是非出席してください。

広報・ロータリー情報委員会関係について

◎広報について
金丸委員長より次年度の広報活動の計画・考え方について説明

・地区内の各ロータリークラブからニュースバリューのある活動計画を早めに提供してもらい、マスコミ各社やロータリーの友などを通じて広く周知を図る。

・富士山の環境美化や世界文化遺産指定推進に関連する計画があれば特に重点的に広報する。

◎ロータリー情報について
・会員数28人の甲府城北クラブの元会長小林秀臣会員から会長としての経験にもとづいて、小クラブのクラブ運営の難しさの説明があった。

・世界的な会員減少傾向や、クラブ運営（特に四大奉仕委員会）のマンネリ化対策として注目を集めているCLP（クラブ リーダーシップ プラン）について詳細に説明があった。
この中で小林会員からはCLPでは従来の四大奉仕にかわって会員増強委員会、クラブ広報委員会、クラブ管理運営委員会、奉仕プロジェクト委員会、ロータリー財団委員会の五つの委員会で運営されることになるが、これだとロータリーの基本である「職業奉仕」の意識が弱くなる危険があるとの指摘がなされた。

・アドバイザーである渡辺守人パストガバナーからRI2650地区（奈良、京都など）では、次年度管内88のクラブでCLPの導入が予定されていること、山梨県内でも井上ガバナーエレクト、渡辺パストガバナーの所属する甲府南ロータリークラブでも、次年度からCLPの導入が決まっているという補足説明があり、各クラブでCLPについて真剣に討論してほしいとの要請があった。

職業奉仕部会

アドバイザー・パストガバナー	岩波　政雄（甲府北）
リーダー・次期職業奉仕委員長	青柳　明男（甲府北）
サブリーダー・次期職業奉仕副委員長	中村　光次（清　水）

報告者名：青柳明男（次期職業奉仕委員会委員長）

司会・中村光次サブリーダー

本年度は、井上ガバナーエレクトの方針の中にもありますように、「率先しよう」という基本テーマのすぐ後に「職業奉仕と親睦」をということで職業奉仕が表にでてまいりました。今までにはたぶんなかったことではないでしょうか。そういった意味でこの職業奉仕委員会の活動というものが改めて認識される大変重要な年度ではないかと思います。

アドバイザー・岩波政雄パストガバナー

職業奉仕という言葉は、アーサー・フレデッリク・シェルドンが提唱した言葉でございます。この人は職業奉仕について非常に造詣の深い人でありまして、「シェルドンのロータリーモットー」で名をはせております。シェルドンが職業奉仕をどのように定義しているかというと、職業奉仕とは「自分の幸せは自分の近くにいる人の幸せと無関係ではない。良質の職業人は自己改善を重ねて自分の職場を健全なものにして、自分のところの従業員とか関係ある外部の人たちの幸せを求めていく。そしてその心を持って事業をすれば必ず成功するだろう。さらに、その成功するだろうということを自分で確かめ証明してみせることである。」と云っているのでございますね。自分の事業で実践すれば必ずや事業は隆盛に発展すると示唆しているのでございます。

そこで、自己改善を重ねるということが非常に大事なこととなってきます。自分の考えていることを変化させなくて何時までもそれに固執する傾向にあるのが人間というものですが、やはり自分を改善していかなければいけない。世の中が変化するように自分の考えあるいは動きも変化させていかなければいけない。世の中の変化につれて自分も変化していくぐらいの先の見通しがなければ駄目だということが云われているわけでございます。シェルドンは仕事に対して非常に熱心な方でありました。自分が自らの職業で実証して、地域の職業人たちに職業に対する倫理の必要性を伝えていかなければならないと云っているのです。こうした話は皆さんよく聞かれるだろうと思いますが、最近中央へ行って、またわれわれがガバナー就任前にアメリカへ行って研修したときにも、職業奉仕が未だそれほど問題になっている状況ではなかったが、これについて非常に熱心に話をされていた人がおられました。

ロータリアンにとって職業がなぜ重要かというと、われわれが職業を通して地域に奉仕するのが仕事なのだからです。職業を通して地域に奉仕する。これをどういう方法でやるのかは、各人がそれぞれ自分の信念に基づいて考えていく事が大事でございます。人から教えられることも大事だが、自分には自分の信念というものがあるわけですから、つまり職業に対してはこういう信念がある、こういう生き方があるというようなことを通して、多くの人に平和あるいは良い世の中をもたらしたいと願ってやって欲しいということをエバンストンの本部のほうから痛切にいわれたことがございました。皆さん方もその点は十分ご理解されていると思いますが、やはり職業というものが、自分の職業が安

定してきてはじめて奉仕の道へ進めるわけでございまして、職業人としての自分自体の職業が安定していないとなかなかその方向へ進めるわけにはいきません。昔から、職業の重要さというのは、これはロータリーに関係なく云われているわけでございます。ところが、それに余りに固執して何時までも変化なしにじっと守っているという保守的な考え方の人がいる一方、職業はどんどん進歩していくからその進歩に応じて変化させて自分もそれについていこうとする考え方の人たちもいるわけでございます。そのどちらが良いか悪いかは、個人の考えでありますからどちらが良いとも悪いともいえません。

ロータリーというものは自分という個人が地域社会に奉仕するもの、つまりは自分の職業を通して地域社会に奉仕するということが職業奉仕の最大の目的でございます。それぞれ自分の職業を大事にしながら、地域社会への奉仕に向かうという方法をとって、今のロータリーがまさにその方法をとって進んでいるわけでございます。ロータリー本部のほうでもこの問題を非常に重要視しております。職業奉仕という領域は、職業人が自分の職業に適用すべき、言うならば職業奉仕というのは職業における倫理運動だということでございます。職業の倫理というものはどういうものであるのかということを、これからみんなで考えていく。そうしてその倫理を定着させる、これを向上させるといいますか、そういう方向に向かっていくのが職業奉仕の道だろうと思うわけでございます。

職業倫理、これはよく言われている言葉でございまして、いろいろな領域の問題に対しましていろいろなロータリーの芽が出てくるわけですが、それとは全然別個なものとして職業奉仕は存在していかなければならないでしょう。自分の職業をやはり大事にする。その大事にした職業から出発して奉仕のほうへ入っていく。自分個人の職業というものを自分の信念、自分の人柄で向上発展させていく姿に、地域の人たちが「ああいう素晴らしい人たちのやることは良いなあ」という感じを持ってくるとロータリーは発展していくでしょう。そういう事もなしに、ただ漫然としてロータリーを送っていくということになると、ロータリーがどういうものであるかということが分からなくなってまいります。皆さんもひとつ、地域の素晴らしい職業人になっていただいて、大いにロータリーに奉仕していただきたいと思うわけでございます。

いろいろな所で話を聞くとそれなりに勝手気ままなことを言っている人もあれば、一方的に言われたことをモロに受けてその通りやっているところもあります。しかし人から教わって云々ではなくて、自分自身で職業の重要さを理解するとともに、職業を大切にしながら仕事を通してロータリーのほうへ目を向けていただきたいと考えているわけでございます。いずれにしましても、皆さんはクラブにおいて職業奉仕という領域で職業奉仕委員長を務めるわけでございますが、どうかこれがロータリーの根源であり、その根源にある仕事をやるのだという意識を持って大いに頑張っていただきたいと思うわけでございます。

青柳明男委員長方針＆事業計画説明

「職業奉仕って何か漠然としていてよくわからない」、「職業奉仕は難しくてよく理解できない」、そして「職業奉仕委員会は何をすればいいんだろうか」、「結局自分の仕事を一生懸命やれば、それが職業奉仕なのだろう」といった声がいまだに聞かれます。そんな声に答えるために、現年度、鈴木年度では、「職業奉仕を考える」というパソコン用スライドーこれは 20 枚のスライドにナレーションを入れ自動でスライドショーが行えるようＣＤに焼きこんだものですが、これを 2005 年８月末に作り終え、直ちに地区全クラブに郵送しました。みなさんにご覧いただけたものと思っています。

その中で、職業奉仕はロータリーの原点でありロータリー運動の根幹であるということを繰り返し強調しましたが、それは、原点であり根幹である職業奉仕の何たるかが分からないとロータリーが分からなくなってしまうからです。そしてひいては、例会を毎週やる意味も、例会がなぜ重要かという意味も分からなくなります。わからない状態が長く続けば、例会の魅力、クラブの魅力そしてロータリーそのものへの関心も薄れて、単なる昼食会、単なるボランティア団体なのかということになって、ついには退会に繋がっていってしまいます。

配布資料の中にあります「奉仕の一世紀」抜粋第 13 章職業奉仕の初めのほうの一節のなかに、『永

年にわたり、ロータリアンにとって職業奉仕を簡潔に定義することは容易くはなかった。ロータリアンはクラブ奉仕で培う仲間意識、社会のニーズのために奉仕する満足感、国際奉仕が世界平和に貢献するという期待に喜びを見出してきたが、職業奉仕は説明しにくかった。子供の命を救うことや、障害者に車椅子を提供すること、国際親善奨学生を遠国に送ることなどに比べて、やりがいの面で遜色があった。このため、職業奉仕は「忘れられた奉仕部門」と呼ばれることもあった。違いはもう１つある。クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕の活動には通常ロータリアンが集団で参加するが、第二の奉仕部門である職業奉仕は、個人で行うのが普通である。』というくだりがあります。

「職業奉仕を簡潔に定義することは容易くはなかった」、「職業奉仕は説明しにくく、子供の命を救うことや、障害者に車椅子を提供すること、国際親善奨学生を遠国に送ることなどに比べて、やりがいの面で遜色があった。」、「職業奉仕は〈忘れられた奉仕部門〉と呼ばれることもあった。」

本当にそうでしょうか。本当に定義が難しいでしょうか。職業奉仕は他の部門に比べて遜色があるのでしょうか。また職業奉仕は「忘れられた奉仕部門」でしょうか。たしかにそういわれても仕方がないような現実の中におかれているのは事実です。しかし遜色があって忘れられたと思わざるを得ないようにしたのはRI自身であり、その責任はRIにあると私は思います。

これにつきましては昨年の地区協においても同じ事を申し上げました。

1990代に入ってからの国際ロータリーの流れはボランティア活動へ、特に国際ボランティア活動へ傾斜してきており、ロータリーの第二標語の廃止運動はその最たるものでありましょう。今の国際ロータリーの姿は、ロータリー財団を核にした国際ボランティア活動主導の傾向を色濃く反映しているように思えてなりません。しかし私たちは、ロータリーがロータリーであるためには職業奉仕の理念を決して風化させたり骨抜きにしたりするような動きに同調してはならないのです。私たちはロータリアンの在り様として職業奉仕を実践し、ロータリークラブの在り様として職業奉仕団体としての特質を堅持し、自分たちの存在理由を守りかつ保持しなければならないと考えている次第です。

さてそこで、職業奉仕を定義することがそんなに難しいことかどうか考えてみましょう。以下申し上げますことは、Rotary International、Rotary Japan Web、ロータリーの源流（ウェブ・マスター：田中毅2680地区PDG）などのウェブ・サイトに公開されています資料、文献から引用あるいは参照させていただいています。ついでながら皆さまのご活用もお奨めいたします。

職業奉仕というロータリーの専門用語は、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した独特の概念であることは皆様ご承知の通りであります。ですからシェルドンは職業奉仕という言葉にどんな意味を担わせているかということを理解するということが出発点になります。He profits most who serves best（最もよく奉仕する者､最も多く報いられる）は､ロータリーの職業奉仕理念の提唱者シェルドンの余りにも有名なロータリーモットーであります。シェルドンはこのモットーによってどういう事を説いたのかみてみます。

シェルドンは、職業奉仕とは次のようなものだと説いたのです。

まずロータリアンは、「自分の幸せは、自分の周りにいる人々の幸せと決して無関係ではない。良質の職業人のなすべき事とは、自己改善を重ねて、自分の職場を健全に守ると共に、取引先・下請け業者・従業員・顧客など、自分の事業と関係を持つすべての人に幸せをもたらすことである。そして、その心を持って事業を営めば、必ず最高の利益が得られることを自分の職場で実証することである」という職業上の実践的な倫理観を持たなければなりません。そして「実証することそれ自体が、そのような心のあり方の必要性を地域全体の職業人に伝えることになるのだ」と考えるのです。倫理観に支えられたこの考え方を理念と呼ぶのでありますが、これをただ頭の中で思うだけではなく、実際に「そのような考え方で毎日の職業生活を営む」のです。このことをシェルドンは職業奉仕といったのです。そしてわれわれは、職業奉仕はまさに「職業を通じて行う奉仕」であり、と同時に「職業は奉仕の機会」であることを理解するのです。

He profits most who serves best でシェルドンが述べた　Profits　とは金銭的利益そのものであっ

て、我々東洋人が陥りやすい発想である「無償の精神的な喜び」とは別次元の発想であることに留意する必要があります。
「職業奉仕を根幹としたロータリー運動というのは、すなわち倫理運動である」ということを理解しておく必要があります。ですから、ロータリークラブは、寄付や慈善の団体でもボランティア団体でもありません。良質な職業人の倫理運動なのです。逆説的な言い方になりますが、このロータリー運動は倫理運動であるという視点を見失いますと、職業奉仕というものが判らなくなります。ひいてはロータリー自体がよく判らなくなってしまうのです。

では、ロータリーが倫理運動であるということが、一体どこに書いてあるのかといいますと、「社会奉仕に関する 1923 年の声明」、いわゆる決議 23 － 34 の中にあります。また、「ロータリーの綱領」の中にあります。これらを読めば、ロータリーがまさに倫理運動であるということが一目瞭然に解るだろうと思います。

ロータリーの本質を確立し不動のものにしたといわれます、1923 年セントルイス大会で採択された「社会奉仕に関する 1923 年の声明」、いわゆる決議 23 － 34 の中で、『ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは奉仕－超我の奉仕－の哲学であって、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理の原理 The practical ethical principle に基づくものである』と定義しています。この声明から、ロータリー精神とは人生哲学であり、ロータリー運動の根幹は自分の職業を通じての倫理運動、つまり職業奉仕にあることが明確に読み取れます。
（しかし残念なことに、「社会奉仕に関する 1923 年の声明」は 2001 年の改正で声明の一番目の項目の文節から、『「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づくものである』という文言が削除されてしまいました。これはまさに国際ロータリーの潮流がロータリーのボランティア化へ向かい、職業奉仕が骨抜きになっていく証左ではないでしょうか。）

次に［ロータリーの綱領］を見てみますと、その本文は「ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある。」となっています。目的はただ一つ、すなわち「ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成すること」なのですが、その下に 4 項目が付いていますので、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕について述べられていると誤解している人がいるようですが、これは重大な誤りです。この 4 項目は目的を達成するための付帯事項すなわち解説なのです。お手元の資料にある通りです。
そしてここでは、綱領の目的の中にある鼓吹し育成すべき「奉仕の理想」という語句に注目しなければなりません。これがキーワードです。「奉仕の理想」とはなんなのでありましょうか。それは二つのロータリー標語が言っていることを融合させたものにほかなりません。「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と「超我の奉仕」の二つの考え方をまとめて奉仕の理想と言っているのです。
これを平たく言えばこういうことでしょう。『人間誰しも我欲を持っています。がその一方で他人のために尽くしたい、役立ちたいという感情もあります。その間で気持ちは揺れ動きます。そこで利己的な欲望も認めたうえで、それをロータリーの説く職業における実践倫理でコントロールしながら、個人生活、事業生活および社会生活を通じて他人のために奉仕しましょう』という考え方であります。このような気持の揺れは、私たちは日常生活の中で頻繁に経験していますので、皆さんにもすんなりと納得していただけると思います。これらのことが、ロータリー運動の根幹は職業倫理を基盤にした職業奉仕にあるといわれる根拠でありまして、そういうことからロータリーは職業奉仕団体と定義づけられ、「わたしは奉仕する」I serve をモットーにしてきたわけであります。数多く存在する奉仕クラブの中で、職業奉仕の理論付けと実践を根底に置いて活動をしているクラブは、ロータリークラブ以外にはなく、言い換えれば、職業奉仕クラブであることがロータリークラブの特徴とも言えましょう。
以上申し上げましたことは、手続要覧から転載しました添付資料「職業奉仕の指標」の中の「職業

奉仕に関する声明」、「ロータリアンの職業宣言」や「ロータリーの綱領」を見ていただければ、今まで申し上げたことが箇条書的に明示されていることにお気付きになると思います。いろんな文献や資料を読み、かつ勉強されるとき、頭の中を整理するインデックスとして時折見返されれば非常に役立つと思います。そしてそうすることによって職業奉仕が、知識として身についていくことは間違いありません。

しかし、職業奉仕は知識として学ぶだけで果たして身につくものでしょうか。残念ながらそれだけで身に付くものではありません。職業奉仕の何たるかを学習体験し、それを積み上げていく機会を持たなければならないのです。それではその学習体験をどこで積むことが出来るのでしょうか。つまり、私たちがロータリークラブに入ってロータリーの原点である職業奉仕を学び、奉仕の心を磨くことの出来る場とはどこなのでしょうか。それは例会にほかなりません。毎週一回開かれる例会こそが親睦の場であると同時に研鑽の場でもあると先人たちは教えてくれています。

職業奉仕の理念は、ロータリーの知恵なのです。したがって、知恵を学んでそれを実践する職業奉仕の出発点は、先ず例会出席にあります。ところが、時々「私は職業奉仕が忙しいから例会には出席できません」という人がいますが、実はこれは単に「自分の仕事で忙しいから例会には出席できません」ということを言っている事に過ぎないわけです。「一生懸命自分の仕事をする」ことが、すなわち「職業奉仕をする」ことだと誤解しているのです。単に一生懸命に自分の仕事をしたからといって、ロータリーの掲げる職業奉仕をしているとはいえません。一生懸命に自分の仕事をすることは、ロータリアン以外の人達もしています。極端なことをいえば、資格商法とか振り込め詐欺また耐震強度偽装だってそれにかかわっている者達も一生懸命に自分の仕事をしているわけです。しかし、これを職業奉仕と言う事はできないでしょう。ですから、単に「一生懸命仕事に精出すことが職業奉仕」と考えることは誤解なのです。職業奉仕理念を学びそれを実践するためには、先ず毎週の例会に出席しなければならないわけです。

このように、例会出席を通じて仲間のロータリアンの職業奉仕の実践を学びながら奉仕の心を磨いて、自分の個人生活、事業生活や社会生活の中で自らの奉仕を実践するのがロータリーの真髄であります。ロータリーではこの一連の流れを、「入りて学び、出でて奉仕せよ Enter to learn, go forth to serve.」と表現しているのです。つまるところ、職業奉仕と例会は、実はコインの裏表のようなものです。

これまで何回か触れましたが、近年の国際ロータリー全般の動きを見ていますと、職業奉仕の理念を等閑に付して、と言うより棄て去ろうとしているかのような傾向が強まってきていて、「職業奉仕理念が風化し、ボランティア活動一辺倒になっている」のが、残念ながらわれわれの置かれている現実です。

一人一業種の原則の撤廃、メークアップの規則大幅緩和、出席免除規定の緩和と拡大、裁量休会の増加、試験プロジェクト・クラブとｅクラブの創設など、入会や会員資格継続のための規定を緩め、例会軽視の風潮を生じさせかつ助長した結果、東欧など新興民主主義国やアジア、アフリカや南米の開発途上国において会員数を増やしているものの、ロータリー先発国では逆に会員数をどんどん減らし、歯止めが掛かっていないというのが実態なのであります。

日本でも、会員数は減り続けています。社会構造や産業構造の変化とか人口の高齢化、また所得格差の拡大などが原因とする向きもありますが、実はロータリーの活動がボランティア中心になってロータリーの持っていた職業における実践倫理が、職業奉仕の理念がどんどん崩れていって、ロータリーに魅力がなくなってきた結果のように思われてなりません。職業奉仕と例会軽視の風潮に伴って、ロータリーについての学習も次第におろそかになり、だんだんロータリーが何なのかも分からなくなって魅力がなくなり辞めていく。会員を増強する側もロータリーの何たるかが分からなくなって来ているので、新会員候補者にきちんとした説明もしないまま引っ張り込むような結果になってしまっている。これでは定着もしなければ、増えもしないでしょう。ボランティア活動に参加するのだった

ら、ロータリーでなくてもボランティア団体など山ほどあります。それぞれが、活動目的を絞っていますから何でも屋のようなロータリーより余程分かりやすいと言うものです。日本には現在、NPO、NGO をはじめとするボランティア団体が 11 万９千(2004 年 11 月の出版物)もあると聞いております。ボランティア活動参加が目的なら、自分の目指すものが必ず見つかりますし、高いロータリークラブの会費や寄付金などをそれに充当すれば、十分すぎるほど自分の志を適えることができるでしょう。

したがって、ロータリーが私たちにとって魅力あるものであるためには、職業奉仕理念が風化し、ボランティア活動一辺倒になったといわれる今こそ、私たち自身とクラブが、シェルドンの提唱した職業奉仕の原点に、つまり「ロータリー運動というのは、すなわち倫理運動である」という理解に立ち返って職業奉仕を実践することが、ロータリーを再び、人々をひきつける力のある組織に戻すことの出来る唯一の道だと考えます。以上職業奉仕の理念と実践を中心にお話し申し上げました。

次に地区委員会自体の事業計画と各クラブにご検討をお願いしたい活動目標であります。

地区委員会といたしましては､｢職業奉仕の理念｣の強調にあわせ､私たちの仲間である地区内のロータリアンが現に行っている「職業奉仕の実践」の具体例を訪問取材し紹介する事業を行いたいと思います。それを「職業奉仕の実践倫理としての側面」に対するより深い理解への手掛りと「職業奉仕の実践」への道しるべにしていただこうと考えました。そこでまず、そのようなモデルとなるロータリアンを各クラブから推薦していただき、分区内の会長幹事会等でその中から１名の方を選考のうえ、ガバナー補佐経由で私どものほうへご紹介いただきます。その上で、寄せられました 11 分区 11 人の被推薦者の方々を私のほうで逐次取材訪問させていただき、ガバナー月信をお借りして地区内全会員に逐次ご紹介します。本日の配布資料の中に趣旨説明や推薦基準また推薦用紙など関連資料を加えておきました。本日ご出席の各クラブの職業奉仕委員長様方にお願いでございますが、クラブへお帰りになりましたら会長・幹事さんにご報告いただき早速対象者選びに取り掛かっていただけたらと思います。すでに各分区のガバナー補佐の皆さんには３月 25 日のガバナー補佐研修会にてお時間をいただき趣旨説明とご協力要請を行ってあります。７月 31 日までに対象ロータリアンを確定し、直ちに取材活動に入って、遅くとも９月号のガバナー月信から掲載を開始したいと考えております。

なおここで、先のガバナー補佐研修会で本事業について説明申し上げた際だされましたご質問を参考に補足説明を加えさせていただきます。

分区で一人ということは、他の人は対象から外れるということになりますが、これを漏れたとか落選したとかといった考え方はしないでください。推薦されたどなたも素晴らしい方であるのは間違いないと思いますが、優劣をつけるのではなく今回の事業目的に一番ふさわしい方を皆さんで相談して選ぶという考え方でお願いします。分区の会長幹事会で推薦者を持ち寄り、会長並びに幹事さんが自分の母体クラブの代表者という立場を離れ、ガバナー補佐さんを中心に全員協議で「職業奉仕の実践者」にふさわしい方をお選びください。

なお私は、この事業で特定の人を顕彰するなどといった意図はまったく持っておりません。大きな会社で組織を縦横に動かせる著名な経営者よりも、小さな事業ではあるが目立とうという気もなく善行を積まれている、われわれの身の丈にあったロータリアンを見つけ出し、その在り様を自分のモデルに出来るように紹介するということであります。

推薦された方全員をご紹介できたらどんなにか素晴らしいことでしょう。しかし残念ながら、私は取材記者のようなプロでも、そういったことの経験者でもありませんので、次年度一年間でやれる数は、地域の広さも考え合わせますと分区１人でも手に余る数だと思っています。事情お察しください。また分区からの推薦期限を７月 31 日に設定させていただきましたが、静岡・山梨 11 分区の 11 名の方を全員訪問し取材して、それを文字原稿にしさらに月信仕様に編集するという作業をへて、年度内に終わらせるにはかなりの労力と時間を要します。本事業の実質的なスタートは今回のこの地区協からということになりますので、逆算しますと７月 31 日でも遅いくらいに思っています。しかし、事業が１年にわたるからといって分区ごとに期限を変えることも公平を欠きます。どうしても期限に間に合わないというところがあって、それでも構いませんと申し上げたら、どんどん後へずれ込んでし

まい事業が遂行できなくなる恐れが生じます。日程的に窮屈で申し訳なく思いますが、よろしくご理解とご協力のほどお願いします。
そのほかの取り組みといたしましては、もしご希望があり、前段でお話しました「職業奉仕を共に考える」というような話でよろしければ、クラブ例会での卓話要請にも出来るだけ対応したいと考えています。

続きまして、各クラブにおいて委員会活動計画をご検討されるとき、ご考慮して欲しい目標項目についてご説明申し上げます。職業奉仕委員会の特性から考え、クラブの内部に向けての活動と対外的な活動に分けて考えてみました。
まず内部的なものとしては、第１に職業奉仕委員会所属の委員の皆さんがまず職業奉仕について理解を深めることが第一歩となると思いますので、随時委員会会合を開かれて勉強会を催していただきたいと思います。そしてその成果を職業奉仕の時間などの例会プログラムの中で皆さんに伝えていただきたいと思います。
２番目には、クラブフォーラムや情報集会のテーマとして職業奉仕を取り上げ、ロータリーの提唱する職業倫理と職業奉仕理念、またその実践について全員で考える機会を作ることも検討してください。情報集会については、そのノウハウの情報資料がお入用のクラブがありましたら、私が持っておりますものをご提供しますのでお申し出ください。参考までに申し上げますが、私の属する甲府北クラブでは毎年開催しておりますが、親睦を深める効果も高く、人気のあるプログラムになっています。
３番目としましては、職業分類卓話を聴くことです。ロータリアン以外の専門家や著名人を招いて話を聴くことの意義はもちろん否定されることではありませんが、自クラブの会員からその人の職業、職務にかかわる職業倫理に裏付けられた経営理念や組織管理の手法また財務会計の要諦などを聞いて学ぶことに、例会卓話の意義があります。もちろん自クラブ会員ばかりでなく他クラブの会員であってもいいわけですから、志を同じくするロータリアンの話を聴く機会を多く作ることが大事であります。
４番目は、３番目と密接に関連しますが、「百聞は一見に如かず」で、より具体的な学びの機会として実際に会員の事業所の様子を見せていただくことは大変有意義なことだと思います。

次に、対外的な目標としては何があるかについて申し上げます。
１番目としては、新世代並びに社会奉仕委員会と連携して、インターアクトクラブや自クラブの所在地区内の小中高の生徒を対象にした事業所見学、職業体験や職業講話の提供などのプログラムを組むことです。当委員会の中村光次副委員長は、学校当局はもちろんPTAと商工会議所の協力も得て、小学生の職場見学を実施して成功を収めた経験をお持ちだそうです。また落合恒雄委員の南アルプスRCでは、県立白根高校の生徒に職業体験をさせたいという要望をクラブがすくい上げて実施したところ、これがきっかけで白根高校にインターアクトクラブを誕生させたそうであります。
２番目には、クラブの所在地区内の非ロータリアンでロータリー精神に適う事業者の表彰であります。一般的に行われているのは、会員事業所の優良従業員やいろんな分野で功績のあった一般人の表彰ですが、これはロータリーが行うものとしては如何なものかと思われます。いわゆる商工会議所や法人会の行う優良従業員表彰や、県政ないしは市町村功労者表彰となんら変わることなく、何でロータリーがという疑問が生じます。ロータリークラブに入れたいような、自分たちが見習いたいような人を発掘して表彰することは、社会のロータリー理解と評価を高めひいては会員増強につながると思います。
最後の３番目としては、これはなかなか難しいことではありますが、ロータリー・ボランティアであります。ロータリー・ボランティアには国際レベル、地区レベルとクラブレベルのものが考えられますが、私がここで申し上げるのはクラブ・レベルのロータリー・ボランティアです。専門職務に携わる人や特殊な技能や資格を持つ事業者、例を挙げれば医者、弁護士、農業、林業や漁業に携わっていて自分の職能や技術をボランティア活動の支援に使ってもいいという会員と地域社会のニーズとを

組み合わせることです。ですから奉仕を望む会員の発掘と地域社会内の組織、プログラムやプロジェクトの調査が必要になります。これはクラブのすべての会員が対応できるというものでもないので難しい側面がありますが、ある意味では新たな職業奉仕の機会作りにもなることは確かです。

以上で活動目標の説明は終わらせていただきますが、添付しておきました資料は委員長さんご自身の参考資料としてはもちろん、クラブの委員会活動の中でもお使いいただけるよう用意いたしました。小委員会につきましても、一度作った委員会は変えることも廃止することもできないということではありません。各クラブの細則の第７条委員会の第１節の中に「会長はまた、理事会承認の下に、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕および国際奉仕について、必要と考える特定分野を担当する委員会を設置するものとする。」とあるはずです。クラブ奉仕と社会奉仕については、特定の小委員会の設置規定が同じ第７条にあると思いますが、職業奉仕の小委員会は各年度の会長の考え次第で何を作るかあるいは作らないかを決めればいいことになっています。各年度単位で特定分野の委員会を考えていけばよいのであります。しかしほとんどのクラブで小委員会は設置しないと思いますが、小委員会を設ける場合には「クラブに設置が推奨されている職業奉仕分野の小委員会」が参考になると思います。また委員会設置や活動計画策定の際の参考になりますのが、職業奉仕関連の情報資料の中に上げておきました「あなたの地域社会における職業奉仕」という教科書的な小冊子です。インターネットで入手するか、日本事務局から購入してください。ご活用いただけたら幸いです。

最後にもう一度申し上げますが、私たちが次年度関わる職業奉仕は、つまらない部門でも忘れられた部門でもありません。ロータリーのエッセンスです。この職業奉仕委員会ほどロータリーらしくやりがいのある委員会はないと、私は確信しております。職業奉仕委員長の皆さまがたのご指導によって、クラブ内でもう一度職業奉仕の何たるかについての勉強の機会をおつくりいただき、また適切な実践のテーマを設定されまして、職業奉仕がどれ程重要で意味のあるものなのかを再確認する年度にしていただけたらと思います。

質疑応答並びに意見発表

意見：酒匂謙次氏（藤枝ロータリークラブ）

私も突然なんか職業奉仕委員長ということで、ロータリアンとして未だ５年くらいで何も一生懸命やっているという意識もないまま今日、委員長のお話を聴いていてその通りだと思っております。しかし私の中では実は足りないと思っていることがあります。というのはですね、われわれロータリアンにオナーつまり誇りっていうものがなぜなくなって来ているか、ということだと思うのですね。職業奉仕、いま縷々ご説明を賜りましてもっともだと思っております。これはアメリカから発祥しておりますので、それこそマックス・ウェーバーのピューリタニズムと資本主義のことですね。まったくその通りだと私思っています。ただ足りないことがあります。ロータリアンは地域のリーダーですから、従業員を抱え、取引先のディーラーさんなどに対していろんな影響力のある立場の人間の集団であります。そういう集団であるわれわれがどのように見識を深めて、そうしてそういう人たちが自分の職業を通じてやっていくことが、やはり国家の安定、繁栄にどうつながっていくかというところを入れるべきだと思いますね。

それで先ほどおっしゃられました研鑽の場所、まったく飯を食っているだけですよ。研鑽の場所ではないですよ。だったら（ロータリーに）入らなくても自発的にリーダー役を果たされている方は一杯いらっしゃいますよ。社員に対して国際問題、社会問題それから今やっている企業の問題などすべてを話されて、その地域に貢献されている方はいっぱいいます。敢えてロータリアンといわなくてもいいと私は思います。だからそれが何でロータリアンだといわれるところを出さない限り、ロータリーの魅力なんてないですよ。やっぱり職業を通じてリーダーとして、オーナーとして社会にちゃんと責務を果たす、それがロータリーだというところを打ち出さなかったら、この集まりは形骸化していくと私は思います。やっぱり先発国で会員数がどんどん減っているというのは正しくその現われだと思いますね。

いまノブレス・オブリージュ（noblesse oblige）という言葉が良く出てまいります。高貴な身分

の人たち、いわゆる影響力ある人たちには義務があるということです。義務があるということはまさしくこういう事ですよね。従業員、地域、係わりある方に対して、広い見識を持ったリーダーがそれだけのことを果たすということです。果たす義務がありますよ。それをやらない限り日本の国家安定はないと私は思います。先ほど申されましたプロフィットは、リーダーを囲む者が与えてくれますよ。それにふさわしいリーダーが存在すれば当然与えてくれます。そういうことを考えたとき、ロータリアンとしてまず足りないのは、研鑽の場所がなってないことです。これをどうするかに懸かってくるかと思います。

コメント：青柳リーダー

同感でございます。今日申し上げましたことも、酒匂さんがおっしゃられましたように、私たち職業奉仕委員会のリーダーたちは大変な役割を背負っていると思います。ある意味ではクラブ全体の目を覚まさせる役割を担っているといっても過言ではないと思います。ですから勉強の機会をたくさん持ってください。一杯やりながらでいいじゃないですか。最近どのクラブもそうだと思いますが、私どもが入った頃は、結局会合なのか飲み講なのか分からなくなってしまったけれど、委員会だといって飲んで果ては歌って肩をだいて、だんだん先輩と距離が埋まっていって、「あんたそれ違うよ！こうだよ。」「あ、すいません」って頭をかきながらロータリーを覚えていったものです。丁稚奉公みたいなものだったんですね。そんな機会は皆さんのクラブでも以前と比べて少なくなっていませんか。職業奉仕は何でも屋だと思われていますから、何でも屋でいいじゃないですか、ですから何でも屋でやってみてください。そしてたまには職業奉仕委員会へ勉強に来いやとみんなを呼び込んで、宴会をえさに釣り上げて楽しく議論をして、真剣なときは真剣に、愉快なときは愉快にやるということで取り掛かってみてはいただけないでしょうか。そうすれば先ほどいった例会においてもだんだん距離が詰まってくれば、お互いに「やあやあ」という事になりますし、そうすると「ちょっと相談に乗ってはくれないか」とか「それはいい考えだね」なんてことを言い合う機会が増えてくると思います。
以上補足させてもらいました。

コメント：中村光次サブリーダー

酒匂さんから大変いいご意見をいただきました。今のロータリーの活動あるいは例会に満足していらっしゃらない方はだいぶいらっしゃると思うんですが、具体的に何かこうしたらいいではないかというお考えはお持ちでいらっしゃいますか。

補足：酒匂謙次氏

会員の卓話をもっと増やすべきだと思います。いま外部卓話だとか眠くなるような（あるいは単に）面白いような話程度で終わっています。一生懸命やっていらっしゃる事業主またはそういう方々の集まりですから、一日一人ということでなくても 10 分でも 15 分でもいいと思いますね。日々（みんなそれぞれ）改善しているわけですから、私だって話せといわれれば 365 日話しますよ。そのぐらいそれぞれ改善活動をやっていることをお話いただく中に、会員の中にもう一度本当の交わりが出てくるのではないでしょうか。私申し上げますけれど、ロータリアンとしてのオナーがないですよ。名誉っていうのが今は感じられません。だからやはり（会員が）辞めていくと思います。数年前までは寄付行為でも何でもいいですよ、ロータリアンというのはそれなりのステータスがあったと思いますね。それなりのこともやってらっしゃったと思います。今この状況の中では「ロータリアンなんて何だっていうんだ」と開き直る人たちは大勢いますよ。ちゃんとした実質的な活動をわれわれがやっていかない限り、リーダーとしての義務、ノブレス・オブリージュを果たし、これがロータリアンだというのを示さない限り、オナーを回復することは出来ないと思います。ですから、それを研鑽する場所で会員の日々の努力をもっともっと発表していただくというのが一歩だと思います。

コメント：中村光次サブリーダー

ある意味では激しいロータリーの現状についての考えというか、反省と提案であると思います。

コメント：岩波政雄アドバイザー

先ほどの（酒匂さんの）話は非常にいい話だと思います。今は外部講師をやたらと頼んで、その話を聴いておしまいというようなことが非常に行われているようです。私もそういうことには何か空しいものを感じておるわけです。それぞれ自分のクラブの中には、素晴らしい良識を持って話をする人がいるわけでして、そういう話は聴いていて会員は本当にひきつけられる思いをするわけです。そこに人を発展向上させていくものがあると思うのです。外部の話も時によれば大事でしょうが、ずっと外部だけに頼むということではなしに、やはり内部の日常非常に努力しているような人の話を聴くと、自分が知らなかったことを教えていただけるという気がいたします。外部の人の話というのは標題が分かっていればおおよそ内容は見当が付くものです。内部の人の話というものには、何を言うのだろうかという（興味に満ちた）面白さと熱心さがあります。その辺に（会員卓話の）利便性があります。酒匂さんが言ったとおり、大いにクラブの会員を利用して、会員に話をさせる機会を多く持たして、そのことによって融和を図っていくということが出来るのではないかと思います。ぜひそのような考え方で進めて、やってください。

質問：佐村裕義氏（河口湖ロータリークラブ）

今日の青柳委員長の職業奉仕のお話は非常に明快だったと思います。今までとかく分かりにくい話が多かったけれど、よく理解できたと思います。といいますのは、最初の中村さんがおっしゃったように今までは、(職業という言葉の前に）奉仕という名前が付いているので、とかくボランティア活動みたいに、自分の職業でボランティアをやるのが職業奉仕だ、といっていた人が多かったと思うんですね。そういうことで、奉仕という言葉が私は曲者だと思うんです。これは（本当の意味は）むしろ世の中の役に立つということだと思うんです。

私はロータリーに入って 12,3 年になりますが、その前はロータリーのことは全く知りませんでした。私の会社でも、いわゆる品質管理活動に取り組んでいます。その中ではお客さんに喜ばれるような製品とかサービス、これを如何に合理的に造り出すかという仕組みを作るのが品質管理活動なのですね。これは製造であれ、営業であれどこでもそうですし、また単に経営者の問題ではないのです。品質管理においては、お客さんというのは次の工程もお客さんだというわけですね。後工程もお客さんなんです。後工程にも喜ばれるようにするのが品質管理なんです。エンドユーザと面と向かい合っている末端の従業員はもちろん、経営トップもそうですが、世の中のお客さんにどうすれば喜ばれるかを、サービスなり製品なりを通じて追求してきました。それら全てを品質管理という形で徹底してやってきましたので、私は職業奉仕ということは（正しい知識さえ得られれば）割りにすぐ理解できたと思うんです。ところが長い間いろんな方がいろんなことを言っていましたし､訳の分かんないことをいっていたと思うんです｡今日は本当に明快なご説明があったと思います。

その中で私が一つだけ質問したいのは、同業の中での共存共栄であります。お客さんに喜ばれるようにして（なおかつ）利益を得る、つまり効率的に造るということは利益を得るためですね。それを同業の中で競うわけです。価格はお客さんが決めるわけです。いくらコストがかかったからといってコストに利潤を上積みして価格を決められないわけで、そういう意味ではいくら高くてもお客さんが喜ぶものならその値段でいいと思うんですね。いくら儲かったっていいと思うんですね。そういうわけで適正な利潤とは何かっていうと、お客さんが喜ばれるものが適正なんだと、それでいいと思うんです。同業他社との共存共栄は理想ですが、競争に負けてあるいはサービスが悪かったりすれば当然社会から脱落していくわけです。それとロータリーはもともと、会員は同業一社で出発したわけですから、同業を排除しようという側面があったのではないかと思うのです。ですから同業との共存共栄は理想であって現実はそうではないのではないかというのが私の疑問でありまして、そこのところをお答えいただきたいと思います。

回答：青柳リーダー

ロータリーが最初に出来たのはシカゴクラブですけれど、最初の定款は二項目しかなかったんですね。一つは親睦、もう一つは互恵取引ですね。何か商売をするのにその業種の人がいたらロータリークラブの会員とやりなさいと奨めたわけです。ですから当時作られた会員名簿は業者名簿となんら変わるところがなかったのです。しばらくするとロータリーの内部からまた外部からロータリーの利己的な面が指弾を受けて、その後だんだん変遷を遂げていったわけであります。

さて、ご質問の共存共栄をどう考えたらいいのかということであります。先ほど奉仕の理想のところで申し上げましたとおり人間には欲がありまして、この欲は生理と結びついておりますから抑えることはなかなか難しいものです。しかしロータリーではそれを「ロータリーの理性（職業における実践倫理)」で押さえていきなさいといっているわけです。そこで同業他社とどういう張り合い方をしたら良いのかという事になります。同じ製品を価格競争で勝っていくか品質競争で勝っていくかの選択は経営的にはたいへん難しい問題であります。ただそこでロータリーが言っていることは、倫理にもとるような競争は抑えなさいといっているのです。ですから競争そのものを止めているわけではないのであります。しかし結果として同業者を泣かせるではないかという事になりますが、それは適正な競争をやっていて負けていくのだったら（負けるほうに）努力が足りないということになるわけですから、われわれが資本主義社会、市場経済原理の下で事業を営んでいる以上止むを得ないことです。そして自分はロータリーで教わっている実践倫理に照らして何らもとることまた恥ずることはやっていないという信念が持てるなら、それはそれで自然なことだと思います。

意見：久慈直太郎氏（清水ロータリークラブ）

先ほど酒匂さんが例会で卓話をもっとやったらいいではないかおっしゃっておられましたが、私も同感です。ただ、これはうちのクラブの例ですが、趣味とか教養の話が非常に多くて職業関係の話が少ないんですね。

中村光次副委員長は私のクラブの会員ですが、この前自転車の面白いお話をされていました。そういう職業に関する話もいいんですけれど、自分の工夫しているところとかこんな改善をしているよといったところは、自慢話めいてなかなかやり難いところもあるんではないかと思うのです。ですからそういうことに対して、われわれ職業奉仕委員会が（卓話者に)「ぜひ話の枕のところででも会社の近況なりまた職業奉仕に関したことを混ぜてください」とか振りを入れてあげれば、卓話の中でそんな話が出やすくなるのではないかと思うんです。私も今期その辺を工夫していきたいなと思っています。

締め括り：中村光次サブリーダー

先ほど品質管理のお話がありましたがそれに関連しましてちょっと話させていただきます。

つい最近ですけど、品質工学で、設計段階のほうが主な、仕掛けを普及しようという作業に取り組んでおります。つい今月駿河ロバスト・デザイン実践研究会なるものを立ち上げます。これはいろんな業種、業界を含んでいます。私は地区の方へ言っていないんですけれど、ロータリーの方も絡んでいることもあってそこに地区職業奉仕委員会の委員ということで入りました。みなさんはいろんな組織や団体に、あるいは地域、業界に関係していらっしゃるわけでして、その中にロータリアンだからうまくいく、あるいは努力をしているというものを持ってどんどん入っていって頂いたら如何かなと思います。

それから、浜松の方で最近職域見学というか職場を見学するツアーを商工会議所絡みでやっておられます。こういうことは山梨の方でも熱心にやっておられると思うのですが、単なる観光や物見遊山ではなくて、そういう職業の場をいろんな方に見ていただくことも職業活動が基盤になるロータリーならではの仕掛けになるのではないかなと感じております。

以上をもちまして分科会を閉会させていただきます。

社会奉仕部会

アドバイザー・パストガバナー	中野　哲男（浜　松）
リーダー・次期社会奉仕委員長	三嶋　豊造（甲府北）
サブリーダー・次期社会奉仕副委員長	後藤　臣彦（甲府シティ）
次期社会奉仕委員	福沢　雄一（浜松東）
次期社会奉仕委員	中沢　龍雄（甲府東）

報告者名：三嶋豊造　（次期社会奉仕委員長）

富士山文化遺産登録運動について

Ⅰ　分科会において、中野アドバイザーからロータリークラブが実践する様々な活動についてお話を伺ったが、その中で、富士山の文化遺産登録を目指す動きについては、最近頻繁にマスコミが報道しており、新聞紙面などを通じて目にする機会も多くなっている。

アドバイザーの話の中でゴミ等による環境汚染や今後の取り組みについての提言があったが、リーダーとして私からも、数年に渡り行われている清掃活動、植林活動、また、（財）富士山をきれいにする会（野口英一理事長：山日 YBS グループ関連団体）が、44 年に渡って行っている活動などの実例を紹介させていただいた。

行政機関に目を移すと、山梨・静岡両県が協調して積極的な活動を行う動きとなっており、山梨県においては山本栄彦知事を本部長として、去る 3 月 20 日には「富士山世界文化遺産登録山梨県推進本部幹事会」が、また、3 月 23 日には同本部会議が開催され、平成 18 年度事業計画案が討議されたところである。

このような地域全体の動きの中で、国際ロータリー第 2620 地区としても 2005 ～ 2006 予算も勘案しつつ、植林地の下草刈りを行い、樹木の成長を助ける運動を行うなどの意見統一が図られた。

富士山を巡る情勢はこのように上昇機運ではあるが、清掃活動に参加した静岡県の会員からは、「100 人～ 200 人単位の参加者では（ゴミの量が多すぎて）活動が十分に行えない。」といった、活動の実効性に関する意見もあった。

実際、ここ数年の清掃活動に参加してみると、心ない人が残していった「悪行の痕跡」を数多く目にすることとなり、人間性善説に疑問を感じてしまう部分もある。

しかし、富士山の環境保全・改善に向けた地域ぐるみの様々な取り組みの積み重ねと活動の周知によって、ゴミを捨てている人には反省を促し、また、より多くの人の関心を呼び起こす事に繋がっていって欲しいと心から願っている。

ここで、中野アドバイザーからいただいた資料として、本年 4 月 4 日付け静岡新聞の興味深い社説をご紹介する。

タイトル：日本人の心の拠り所だ　富士山と世界遺産

富士山の世界遺産登録に向け、静岡、山梨両県の合同会議が本年度の事業計画を決めた。民間でも、NPO 法人が昨年から運動を始めている。官民が一体となり、登録を達成したい。

登録は世界が富士山の「顕著な普遍的な価値」を認めて初めて実現する。最も重要なことはユネスコ（国連教育科学文化機関）の厳しい評価に耐える「価値」を証明することだ。

両県は５年後の登録を目指し、国がユネスコに提出する暫定リストの素案を年内にまとめる。人間の営みと自然とのかかわりの価値を認めさせるには、富士山にまつわる伝統、思想、信仰や、芸術、文化作品などを厳密に調査し、整理した内容に仕上げる必要がある。景観や植生なども調査対象になる。

素案づくりには、両県に学術委員会を置き、国際的な視野で判断する学術委員会も別に設ける。研究者の知見を集め、富士山の文化的価値を体系づけてもらいたい。

世界遺産は 1972 年にユネスコで採択された国際条約で、世界では 628 件の文化遺産、160 件の自然遺産などが登録済み。日本でも法隆寺の仏教建造物、白川郷など文化遺産が 10 件、白神山地、屋久島、知床の自然遺産３件が登録されている。

富士山の世界遺産登録については 94 年に 246 万人の署名を集める請願運動を展開した。しかし、ごみやし尿処理の管理対策の不十分さなどによって候補から外れた経緯がある。

し尿処理は山小屋などへのバイオトイレが普及し、富士山憲章運動やボランティアによる一斉清掃、植林活動も展開され、富士山の保全は大幅に改善されてきている。92 年に導入された「自然景観の中にある文化」を意味する「文化的景観」の概念も、富士山の世界文化遺産登録には好材料となりそうだ。

登録には、将来にわたって保全していく体制づくりも必要になる。遺産の範囲は特別名勝の五合目以上などが「核心地域」、ふもとの国立公園が「緩衝地域」に想定されるが、法の規制とともに、居住民ら民間側にも理解を求め、一体的な管理体制づくりが欠かせない。陸上自衛隊の演習場の位置付けも課題だ。

世界文化遺産登録に向けた民間運動は中曽根康弘元首相ら全国各界の著名人が名を連ねる NPO 法人「富士山を世界遺産にする国民会議」が再び、大きなうねりを巻き起こそうとしている。富士山の価値を見直すことは、日本人の心の拠り所（よりどころ）を再発見する絶好の機会だ。（終）

Ⅱ　最近、行政、自治会等により各地域で美化運動、清掃活動が行われるようになってきており、R.C でも独自に、また関係機関・団体とタイアップして環境保全に対する活動を強めているが、後藤サブリーダーから各クラブ社会奉仕委員長に発言を求めた際には、例えば富士山の環境保全に対する活動に関しても、社会奉仕委員会として単年度だけでなく永年に渡って、日本のシンボルとしての富士山の保全を全国的な運動に高めていく必要があるのではないか、との意見が出された。

山梨県では中学校によって学校林があり、生徒が植樹、整備を行っているが、家庭だけではなく、教育の現場も通じて恒常的に自然に親しみ、環境に関心を持つ心を醸成することによって、将来の豊かな人間形成に役立つのではないかと考えている。

なお、これらの活動に対してはクラブによって社会奉仕委員会が援助を行っている。

※　分科会の次年度方針として中野アドバイザーの総合的なアドバイスも受けながら、2005 ～ 2006 年度引継事項ともにらみ合わせ 2006 ～ 2007 年度としての各クラブの実情に即した活動を本日の

分科会の討議の中から、また、全体会議の報告を参考に年度を進めていきたいと考えている。

社会的弱者問題について

全国的に高齢化が進む一方、出生率の低下が報じられている中で、社会奉仕部会としては特に、身体障害者、高齢者などの社会的弱者が健康で安心して生活できるように、各自治体とも連携しながら活動していくべきであるとの意見が出された。

私の所属するクラブでは、身体障害者福祉施設に車椅子を寄贈し、大変喜ばれているが、活動の中で一人暮らしの高齢者宅を訪れる場合などは、家の中に入られる事を好まない場合もある。活動が善意に基づくものであることはもちろんであるが、先方の状況、気持ちなども十分に理解する必要がある。

場合によっては地域の民生委員や社会福祉協議会とも連携を取りつつ、活動が善意を超え、押し付けにならないような配慮も心がけたいものである。

また、協議の中で後藤サブリーダーから、各クラブの近況や今後の取り組みについて報告を求めたが、その内容は以下のとおりである。

パワー浜松クラブ　鈴木会員：通年で地区の清掃活動を実施している。

浜松クラブ　中野アドバイザー：重度身障学園への奉仕活動を８年間に渡って行っている。

浜松第２分区　駒形会員：富士山の美化運動としてゴミ収集を数年間実施しているが、今後も継続していく予定である。

分科会では多くのクラブから発言があり、非常に活発で有意義なものとなった。

なお、去る５月 20 日に小沢地区社会奉仕委員長と現地調査を行ったが、立ち枯れなどの状況も見られたため、次年度以降、下草刈りと併せて 100 本前後の植え替えが必要と思われる。

国際奉仕部会

アドバイザー・パストガバナー	青島　廣幸（静　岡）
リーダー・次期国際奉仕委員長	長谷川　了（浜松北）
サブリーダー・次期世界社会奉仕委員長	森川　　清（甲府南）
サブリーダー・次期青少年交換委員長	大川　正博（沼　津）

報告者名：長谷川了（次期国際奉仕委員長）

分科会での協議事項

識字率向上プロジェクトの推奨

国際ロータリー第2620地区　国際奉仕委員会、世界社会奉仕小委員会では、昨年度、皆様のご協力を頂き、「WCSアンケートの結果」を小冊子にまとめ、84クラブの国際奉仕委員長へ配布させて頂きました。

次年度のRI会長方針に伴い、途上国の子供たちの識字率向上に繋がる事業を行っては如何でしょうか。プロジェクトを取り上げて大事業、中事業、小事業とメニューをまとめてみました。委員会としてご検討をお願いしたく地区協議会の勉強会に於いてご案内申し上げます。率先して何かの事業を行っていただければ幸いに存じます。

規模別事業	具体的事業	予算	受付仲介団体
・周年事業クラブ向けの大・中事業	・学校建設 ・図書館建設	・500万円前後 ・300万円前後	・姉妹クラブ(A) ・現地RC(B)
・クラブの目玉とする中規模事業	・放置自転車の寄贈 4500台／年間　整備組合で管理。コンテナ２台に分解して450台載る。（分解→運搬と現地組み立て）	・コンテナ２台が20万円前後でできる奉仕	・タイ、バンコクのスリウォンRC、 ・カンボジアは現在ルートの確立を協議中です。(C)
・単年度向け小規模事業	・里親支援 月々5,000円、年間60,000円で１名の子供が学校に通うことができる。	・６万円前後	・NGO法人(D)
	・教育機材、学用品、消耗品等の寄贈 不要になった品	・規模に応じて	・オイスカ参加者(E)に委託し、現地の子供たちに直接渡す。

上記以外にもたくさんの窓口はあると思いますが、代表例として選んでみました。

A：途上国に姉妹クラブがありましたら、クラブtoクラブで行ってください。

B：甲府城北RCからお話を伺ってください。親切丁寧に教えて頂けます。その他、要望があれば、カンボジア等のRCに問い合わせてみます。

C：放置自転車の財団法人あり、4500台／年間　整備組合で管理。現地の仲介RCとルートを確立中です。（当面、三島南RC　山口　辰哉様）

D：㈶フォスタープラン協会　東京都世田谷区三軒茶屋２－11－22サンタワーズセンタービル10F＆11F　支援者向けTEL　03－5481－6100

Ｅ：①　山梨地区の今年度の植林地はタイ国のラノーン県で、８月３日～８月９日です。現地の子供たちは学用品（ノート、鉛筆等）を欲しがっています。甲府南ローターアクトが参加しますので代表して渡して頂きます。ご協力を頂いたクラブには、帰国後にローターアクトが例会へ出席し報告をする予定です。

【オイスカ山梨県支部　事務局　田中様　055 － 231 － 6699】

②　静岡地区の今年度の植林地はフィリピンのヌエバビスカヤです。８月２日～８月８日です。20 年前に植林した「みかん」の木が現地で一大産業になってきているそうです。静岡では熱海 RC、浜北 RC、浜松東 RC、熱海南 RC の応援を得て、それぞれの地域の高校生が毎年参加しています。この参加者に託することができます。

【オイスカ静岡支部　事務局長　市村（イチムラ）様　　053 － 464 － 0339】

森川清サブリーダーの報告

先ず、2620 地区の 84 ロータリークラブの参加者に、国際奉仕委員会の中に世界社会奉仕小委員会があるクラブがあるか否かの問いに６クラブだけが挙手をし、委員会設置クラブが少ないことを確認しました。

WCS プロジェクトはマッチンググラントと同じものであるという誤解があることや、マッチンググラントプロジェクトと同様に、WCS プロジェクトは２カ国のロータリークラブが関与するものが多いことを伝えました。

WCS の行動への指針の中には、２カ国以上のロータリアンが参加していることとか、参加国中、１カ国はプロジェクトの実施国であるとかが記載されていますが、菅沼次期幹事とも相談して、必ずしも２カ国のロータリアンである必要はない。身近なところから、援助を必要とする人々に、援助を提供したいという、ロータリアンが参加することでよいとの見解を頂いたことを伝えました。

そして我々地区の役割としては、プロジェクトにはどんなものがあるかとか、相手国の窓口等をお知らせして推奨することであると考えを述べました。

この考え方は、現、柳瀬委員長が昨年に「WCS の行動への手引き」の冊子をまとめ各クラブに配布し、そして今年は各クラブよりアンケートをとり冊子にまとめて各クラブに配布しました。それらを引き継いでいることを伝えました。

テーマを次期 RI 会長が強調事項の１番に掲げている「識字率向上」に関するプロジェクトに絞ったことを伝えました。

大事業に関しては、周年事業クラブの実行委員長宛と、次期会長、国際奉仕委員長宛に「記念事業として途上国の子供たちの識字率向上につながる事業を行っては如何でしょうかとご案内を差し上げていることを伝え、記念事業では、できれば大事業を取り入れていただきたいと重ねてお願いをしました。

そして当国際奉仕委員会で決定できそうな手軽にできる中事業、小事業を特に推奨することを伝えました。

事例発表

【学校建設】

先ず、学校建設の事例として甲府城北 RC からの予め提出された資料を基に要点を発表しました。(別紙資料「ラオスとの友好のかけ橋事業」)

【放置自転車寄贈】

次に放置自転車の寄贈を行っている三島南 RC の山口様より発表をいただきました。比較的容易に取り組める事業でお勧めしました。

（山口様の発表内容）

３年前から、タイへ放置自転車の寄贈を行っている。元 RI 会長のラタクル氏の所属するタイ、トンブリ RC の子クラブであるスリオン RC（メンバーはタイ駐在の日本人が大半を占める）の中村氏を介して事業を行っている。10 回／年の計画で日本中の RC から募集をしている。三島南 RC の紹介で島田 RC も昨年参加して頂いた。

他方、カンボジアへ、ロータリーへ入会する以前の 1996 年から、個人でカンボジアに学校建設等を行ってきた佐野氏、新富士 RC（昨年入会）も放置自転車の寄贈に意欲的に取り組み始めた。

最近、(財)日本自転車駐車場整備センター（日本自転車振興会の下部組織）で、タイのスリウォン RC、カンボジアのメトロ RC、新富士 RC の佐野氏、現静岡第三分区ガバナー補佐木村氏の４者で今後の推進に向けての協議を行った。

タイは日本での寄贈元が増えてきているが、カンボジアはこれからなので、カンボジアのルートを確立するほうが良いのかもしれない。但し、金額等については不明です。

現在、放置自転車の在庫は充分あるようです。カンボジアについては現地受け入れ体制、日本での協力体制（新富士 RC だけでは難しいと思います）が確立しないと、進まないので動向を見守りながら進めて行くことを伝えました。

【里親支援】

最も簡単な事業の里親支援の説明をしました。

【学用品の寄贈】

一番身近で、毎年行っているオイスカの地球環境植林フォーラムの参加者に委託して、現地の子供たちに学用品を贈る事業を推奨しました。

【助成金の申請受付】

事業計画と申請書を７月１日～９月末までに提出を頂き、効果的なプロジェクトに助成を行うことを伝えました。

【その他】

協議会時間外で、浜北 RC のメンバーがバングラディッシュの自閉症の子供たちを支援したい意向で検討を始めていることを聞き、ロータリークラブの地区事務局の連絡先や、NPO 法人の連絡先を後日伝えました。

静岡南 RC からはスリランカにマッチンググラントを使用しての人道的プログラムの事業を計画していることを聞きました。

大川正博サブリーダーの報告

１．分区制について

分区内輪番制と言ってきましたが、私は分区制と呼んだ方が適切であると考えています。分区制の内容としては「各分区にて１ロータリー年度に１人以上の交換学生の受け入れを行っていただくこと」が現在のところ適当であると考えています。

分区内輪番制と言いますと、受け入れの順番を明確に決めることや、全クラブが受け入れに参加することなどの堅苦しいイメージがあるからです。

静岡第６分区では青少年交換事業に関する申し合わせ（案）を平成 18 年３月 15 日付けでお作りいただいています。参考までに資料３として紹介します。

２．2006 年２月 26 日開催の国際奉仕委員長会議について

昨年、今年と２年続けて開催させていただきました。２回目の今回は昨年に比較し、重要課題の分区制に対する参加者皆様のご理解が格段に高まっていると感じました。各次期ガバナー補佐の分区総評には青少年交換事業に対して一部の厳しいご意見もありましたが、多くの分区で分区制をとり、この事業をより進展させるべきであるというご意見をいただきました。地区国際奉仕・青少年交換小委員会のメンバー全員が大変心強く感じたことと思います。

資料１　去る２月 26 日に開かれた国際奉仕委員長会議における経過報告

資料２　青少年交換プログラムアンケート

３．次期ガバナー補佐へ再度のお願い

PETS 開催の前日の３／25、甲府市談露館にて時期ガバナー補佐研修会議が開催されました。国際奉仕・青少年交換小委員会の５人が（小林現国際奉仕委員長・長谷川次期国際奉仕委員長・倉橋現青少年交換小委員長・平野次期青少年交換副委員長・大川）次期ガバナー補佐に青少年交換事業について再度のお願いを致しました。

次期ガバナー補佐から次のような貴重なご意見・ご要望をいただきました。

山梨第２分区・すでに高校に対し募集に関する説明を行った。

・分区内会員に関心をもってもらうよう１会員 1,000 円の分担金をいただくことを考えている。

・派遣希望国が英語圏に偏る傾向にある。（学生の将来を考えると英語圏以外の方がむしろ有利かもしれません。）

静岡第４分区・国際奉仕委員長会議では悲観的な意見しか出なかった。

（受け入れ学生次第かもしれない。）

・USA では日本が第一志望の学生が比較的少ないように思う。（地区委員会の経験上、第一志望でもこんなはずではなかったという場合も多く、逆に第二志望以下でも思ったよりも良かったということも多いようです。）

静岡第５分区・PETS で青少年交換事業について熱く語って欲しい。

（翌日は派遣オリエンテーションを米山記念館で開催予定でしたので丁重にお断りしました。）

・派遣応募学生の募集締切が７／10 ではガバナー補佐になってすぐで時間的余裕がないのでもう少し延長してほしい。

（今年から８／31 に延長しました。ただし９／２～３にオリエンテーションが開催されますので応募をお早めにお願いいたします。）

・国際奉仕委員長会議はなぜ２月に開催するのか

（各クラブの委員長決定時期を考慮しています。地区協議会の次期に交換事業のお願いをしても予算面などで事業計画に入れてもらいにくいと思います。）

静岡第７分区・公募の場合、派遣は良いとしても受入高校の問題がある。

４．次期の事業計画のあらましについて

青少年交換小委員会の年間事業計画は毎年度かなり確立したものになっています。派遣学生説明会、選考会と４回の説明会及びさよならオリエンテーション。

受入学生説明会：入国前ホストクラブ説明会・入国直後の説明会・富士登山・研修旅行・地区大会･１月の説明会･スキー研修･さよならオリエンテーション（修了式）

恒例となっている事業の他に

① 受入学生の紹介とともに､帰国学生の報告を地区大会等でご披露できればと考えています。毎年、帰国直後の９月上旬のオリエンテーションで帰国報告会を行っていますが、少人数の方に聞いていただいているだけです。

自信と見識を深めて帰国した学生の貴重な経験談は感動をもたらします。現ガバナーは帰国学生の報告にふれ､「ロータリーはこんなにすばらしい事業を行っているのだとあらためて感じた」と感想を述べられています。是非多くの皆様にお聞きいただきたいと思います。

② 受入クラブ・ホストファミリーへのお礼の訪問

地区委員会で分担し訪問を企画中です。

５．地区助成金について

地区活性化資金より 150 万円が予算化されています。

計算式は期首 50 人以下の会員数のクラブについて

80 万円－（期首会員数×１万円）となっています。

今後の国際奉仕活動がさらに実りあるものになりますよう、各クラブの国際奉仕・青少年交換小委員会への皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

質疑応答

静岡第３分区の田島会員より以下の質問がありました。

・ 分区制について総論賛成、各論反対ですが、その理由は派遣する年齢や期間について問題があるのではないかということと、国際奉仕委員会が分区制における基準的な問題や予算等を決めることはできないのではないか。

これについて以下のとおり回答がありました。(以下録音テープ抜粋)

・ (青少年交換副委員長　平野正俊　掛川グリーンロータリークラブ)

こんにちは、今年度青少年交換副委員長をさせていただいております平野です。私は実は若い時代、高校時代から海外を目指して出かけて行った一人なんです。そしてそうした経験が自分の人生観を変えて、地域に帰って国際交流活動を 30 年間やっております。その間に NPO 法人の国際交流センターの理事長をさせていただいたり、本当にたくさんの方たちが集まってきているんですね。実は職業は農業をやっておりまして、JICA の事業もここ 20 年間の間に 100 名くらいの世界各国の農村のリーダーの育成をしております。こうして一緒に同じ屋根の下に生活して、同じ釜の飯を食って、それぞれの経験を生かしていただくということを行っております。そういう中で私の子供も育ち、二人の子供が青少年交換でアメリカとオーストラリアへ行きまして、高校生時代は非常に感受性が豊かですね。自分自身がまだ成熟してないという課題も出ていましたが、その年代は年代での素晴らしい感性というのがあります。例えば小学生の段階で行っても、それは非常に大きいことなんですね。そういう意味では高校生が持っている可能性は実は大学生、成人の人たちが海外に出る７倍の吸収力があるといわれています。そうした経験というのが、まず自分の感性として地球上に生きていくという基本的なベースができていくということと、その人たちと一緒にどうやって生きていこうかということの将来展望が生まれてきます。これからの国際化の時代というのは国境が必ずなくなってくるという風に私は思っています。そうしたときに、地球に暮らす一人の人間として、何をしていかなければならないかということは、高校生として、派遣をさせていただいた学生の中に必ずそういう芽が育っていきます。ですので、その後の生きる人生、まわりの社会を巻き込んでいく力、そ

して、そういうものがどんどん輪になって広がっていきます。世界の地図を広げたとき、概ねどの国がどこにあるというのがわかるんですね。海外に行ったそうした経験がどこに山があり、川があり、そしてその白い地図の上にいろいろな色が塗られて、凹凸ができて立体感ができていくという経験につながっていくと思います。これはロータリーの活動に本当にふさわしい、素晴らしい事業だと思います。そういうふうに自信を持って、非常に強く感じていますので、ぜひご理解をいただいて、内容がこういう短い時間ではなかなか説明できませんので、私どももう少し知りたいという場合は、そのクラブや分区に出て行って説明させていただきたいと思いますので、ぜひ学んでいただく機会を設けていただければと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

・（国際奉仕部会　加藤精一　長泉ロータリークラブ）

長泉ロータリークラブの加藤と申します。娘はメキシコに行きました。娘にはこのプログラムは留学ではなくて、人と人との交流、そういったものなんだということを言ったんですが、あるとき娘から手紙がきまして、向こうの現地のクラブが少数民族を保護している、その活動に伴って現地の村に行ったそうです。その村に着きますと、数百人の子供たちが娘のところにきまして、お金をねだるんですね。本当に１ペソ、たわいのない金額だったので彼女は一人ずつにあげだしたんですね。そうするとみるみるうちに自分のもっている小銭が全部なくなってしまったと、また全員の子供に渡せなくてまだそこに 50 人、60 人といて、ふとその時に彼女は泣き出してしまったんですね。なぜ泣き出してしまったかというと、ああ、これは自分のやっていることは正しいことではないんだと、お金をあげることが正しいことではなくて、この子供たちに自分は何を教えられるか、どうしたらお金を稼げるかとうことを考えたほうが、自分にとっていいことなんだということをそこで初めて気がついたということを言っておりました。まさしくこのプログラムの成果がそこに表れている気がします。このような有意義なプログラムなんですが、だんだんと参加クラブが少なくなってくる、そうすることによって生徒数が少なくなってくるわけなんですが、この小冊子の中に拝見しますと、神奈川・東京地区では分区制ということをやってらっしゃるということなんですが、いまひとつこの分区制にすることによっての利点、そして欠点が見えてこないんですが、こういった東京・神奈川の方々からの報告をおしえていただければと思います。

・（次期国際奉仕委員長　長谷川了　浜松北ロータリークラブ）

神奈川県は分区が２つに分かれておりまして、私どもが行きましたところは新横浜駅を中心にした地区ですね。そこでは強制的に全部を回すのではないということ、そしてその地区の分区の中でもどうしても無理だというクラブは順番で飛び越していくんだそうです。ただし、その小さいクラブと大きいクラブが協力して一緒に受け入れたりすることで全体に影響がいくようにやっているということでした。そうしますと全部のクラブがこの活動に参加するんですね。ですから全部のクラブがこのことを経験するものですから、批判するにしても賛成するにしてもみな経験者が経験の中から出た批判をしたり賛成をするということのようです。ですからかなり具体的に話し合いができるということですね。それから東京の青少年交換委員長会議というのが年２回、全国の青少年交換委員長が集まっていろいろな議論をするわけですが、その地区の必ずガバナーが率先して青少年交換委員長会議に出て、そしてガバナーがその地区の重要な活動として位置付けている。従いまして、地区からこれを担当しているクラブに 100 万円無条件で補助金が出るんだそうです。それから例えば私立の学校へ行くと授業料を分担してほしいというところがあるようですので、そうするとだいたい 120 万とか合計でいうと 130 万位、地区から費用がでるそうです。ですから考え方としては、ロータリーの活動は自主的な活動だからそのクラブに任せてよいというのと、自主性を非常に尊重するけれどもこういうプロ

グラムを地区全体でバックアップしながらやっていこうというのが二つ重なった形に、私はこれを受け止めました。そういう点で良い点は小さい30人くらいのクラブが年間100万くらいのプログラムを組んで、そしてまわりのクラブの応援もなしに孤立無援の状態で歯軋りしてがんばっている、そういう状態はないんだなということが分かって、それが非常にいい点だと思いました。それから、課題だと思いましたのは、やっているクラブとやっていないクラブがあると、やっていないクラブが肩身の狭い思いをするかなという感じがしました。それからもう一つは派遣するクラブと受け入れするクラブが必ずしも同じではない。神奈川県でやっていたのは、１分区で１ヶ所どこかで受けるということで公式です。それから派遣するのは地区の高等学校に何十という高等学校にポスターや説明書を作って全部に配るんだそうです。そうすると地区全体からかなりの人数の方が応募してきて、そこには８分区そこにはありましたからその全体の中で派遣は８名、ただし、受け入れをするのは１分区１人ずつということで、必ずしも１分区１人派遣して１人受け入れということではないということでした。まだ説明が十分ではありませんが、資料もたくさんもらってきて、大変参考になりましたので、私の夢はこれを来年、再来年すぐに実行できるとは思っていませんので、数年準備をひとつずつ積み重ねながら、各分区、各クラブの賛成を少しずつ得ながら、少しずつそういう方向に進めていけたらいいなということですので、分区制についてはそれくらいのスパンでゆっくりお考えいただいて、これからもいろんな意見をたくさんいただきたい、そして私どもも勉強させていただきたいと思います。

『ラオスとの友好のかけ橋事業　ーホーセー小学校支援事業ー』について

甲府城北ロータリークラブ

『ラオスとの友好のかけ橋事業ーホーセー小学校支援事業』は、2002年９月に甲府城北ロータリークラブが単独事業として建設したセーコーン県タテング郡のホーセー小学校に対して行う支援事業です。

2002－01年度、デブリンＲＩ会長の年度が始まる前に、何回かの準備理事会を開きましたが、その話し合いの中で、クラブが一つになって、皆が力を合わせてできることをしたいという思いが多く語られました。会員の一人が以前から行っていた、ラオスの子供への奨学金支援でラオスの教育事情も少し知っていたことから「ラオスに小学校を建設しよう」という提案があり、準備理事会としての検討が始まりました。「意識を喚起して　進んで行動を」というデブリンＲＩ会長のテーマも励みになり、年度が立ち上がる前の各々の委員会の会議にも理事が行って、この件を説明し理解を得る努力をしました。

年度の最初の例会で国際奉仕委員長が会員に「ラオスに小学校を建設したい」という提案をしましたが、出来るのかな～という反応と、消極的な否定という反応でした。その後全員出席のクラブ協議会を２回開き、集中的な話し合いを行い、また例会でラオスでの学校建築に関わっている建築家などを招いて細かな経過や実際の取り組みなどを聞く機会を設けるなどして、約半年を経てクラブ10周年の記念事業として実行することとし、クラブとしての建設にむけた準備が始まりました。

ラオスにはロータリークラブが無く、また学校という施設建設には同額補助金が使えません。しかしクラブで一つになって何事かを達成しようという最初の想いがありましたので、どうしてもクラブ単独でも学校を建設したい、との強い思いがありました。当時会員は35人位でしたが、何としてでも自分達のクラブだけで作ろう、という強い気持を持った会員が核となって活動を進めてきましたが、小さなクラブではクラブ皆の物心両面の協力がなければ達成できないことを痛感しました。

この建設には日本のＮＰＯも関わっていて、クラブ内でも建築費が高いという議論もありましたが、このような活動をしているＮＰＯの運営や組織に力を貸すのもロータリーとしての務めではないか、という気持から仲介をお願いしました。もちろんこのＮＰＯの担当者とのミーティングを重ね実行へと移したわけですが、ラオスは社会主義の国ですから自由に事を運べません。このＮＰＯはラオスに

現地駐在員４名を配し、彼等が官庁との折衝、調整、また国内を駆け回っての実態調査や具体的実施事業の計画、見積および業者の選定、事業経過の確認、完成時引き渡しなどを行っており、私達がラオスのホーセー校にいなくても事業の経過などが分かるシステムを築いています。そのことにより私たちのクラブが国内で行う活動とやや同じレベルで国外でも事業が実施でき、東京のＮＰＯの担当者との打ち合わせ事項はインターネットでラオス駐在員に指示としてだされ、またラオスでの進捗状況も、多少の時間的な問題はあったものの日本国内で知ることができました。さらに現地駐在事務所は教育現場が必要としているものを的確に把握し、教育環境改善施策など適時適切を要求される事柄にも対応できる人材と能力を有しています。

学校は 2002 年９月に完成しましたが、小学校建設は次の方針で建設されました。

・ラオスの将来を担う子供達が気持ちよく学べる空間であること。
・ラオスの建築事情と気候、風土などや環境条件に配慮すること。
・耐久性があり補修可能で永く使用できること。また村人が建築補修に参加でき、自力で補修できること。
・ラオスにおける建築技術や建築に対する考え方の発展に貢献できること。

であり、さらに次の点に考慮して建築を進めました。

・壁のレンガ積みはモルタルの上塗りはせず、現地の土にセメントを混ぜ人力プレス機で作る。屋根瓦も同じ方法で作る。
・壁は少なく、窓を多くとる。通風がよいルーバー式の窓にする。
・高窓で通風と光を取り込む構造にすること　です。

特に壁用ブロックと屋根材の人力プレス機での生産指導を実施して、村人が補修に参加でき、自力で補修できるような指導を行いました。

学校が出来てからは、次の年度での取り組みとして「保健衛生プロジェクト」「図書室の開設」「水道水の確保」「学用品の支援」を実施してきました。また「教室の増築」も目標の一つとして掲げました。

１．保健衛生プロジェクト

ホーセー小学校の生徒２人が不発弾の爆発で死亡し４人が重軽傷を負ったという悲劇がありました。後日、毎日新聞全国版に『不発弾の眠る国ラオス』という３回連続の特集記事の冒頭に取り上げられ、ベトナム戦争時、９年間に 200 万トン以上の爆弾が投下されたことを報告する記事になりましたが、その事故への医療的対応の遅れを踏まえ、保健室の開設という取り組みを始めました。子供達の成長を見守ること、その子供達が大人になった時の保健衛生への関心などに期待しながらの開設ですが、実際的には子供達の成長の記録作り、薬の常備、および緊急時の旅費および手術費などの備蓄を含んでいます。

２．図書室の開設

ラオスでは図書室はほとんどないのが実情です。ホーセー小学校のあるセーコーン県は貧しい県ですから、なおさら図書室などは望むべくもありません。だからこそここに図書室を作りたいと思いました。

図書は毎年贈っていますが、木で作られた図書箱は三段になっていて、真ん中の段は両面が本棚になっていて、表面にはロータリーが贈ったことが大きく書かれています。箱は持ち運びができるように頑丈な取っ手が付いていて、鍵がかけられるようになっています。

布製の本棚は全部開いて壁などに架けて使用します。この本棚にもたくさんの本が入っています。この布製の本棚は折り畳むと背負えるようになって移動図書館にもなりますので、広範囲で活用することができます。

３．水道水の確保

ホーセー村はきれいな水が豊富にある村です。しかしその湧き出ている水を自分達の暮らしに水道として活用する有効な手段がありませんでしたが、近年のその源流の近くに貯水槽を作り、そこから太いパイプで国道沿いまで引いてきて、そこから細いパイプで個々の水道施設まで引いてくる、というインフラの整備が進んでいきました。小学校にもその太いパイプから校庭を横切ってパイプを敷き、２ヵ所の水道施設を作る工事を行いました。

４．学用品の支援

基礎的な読み、書き、簡単な計算などを教えていますが、ノートや紙が無いために書き取りができず、家に帰ってからの学習もできない子もいます。毎回の訪問ではノートや鉛筆、ボールペンなどを全ての子供達に配ります。またサッカーゴールとネット、ボール、サッカーチームのユニフォームも贈りました。

５．教室の増築

新築完成したばかりなのに、なぜ、と思われるかもしれませんが、学校が新しくなったことで500 人近い子供達が通うようになり、親が子供の教育に目を向けたよい機会でしたが、５教室ですからすべての子供を迎え入れることができませんでした。１教室 60 人詰め込んでも全体で 300 人しか学べず、通ってくる子供が減ってしまいました。教室の増設が要望される背景には、通える子に学びの場を提供したい、という現地スタッフの熱い思いを感じることができます。

お陰様でこのことへの、地区を始めとするご理解をいただき、来年度中には１教室を増築できるめどがつきました。

これまで４年間で３回ホーセー小学校へ訪問し、村の家に２泊するなどの体験を通して、私たちも彼等の生活や教育事情などの多くを知ることができました。

それまで無かった太い電柱が２本校庭に立っていて驚いたこともありますが、水道といい電気といい、急速にこの村にも入ってきて、自給自足的な経済も、お金を必要とする経済に急速に変ろうとしています。

いやおうなしの近代化にクラブとして今後の支援のあり方も難しくはなりますが、小学校支援、教育環境支援という方向を誤らずに、また背伸びすることなく続けていこうと思っています。これらの積み重ねを通して、クラブの独自性を培い、国際親善に役立っていくことができれば幸いだと考えていますが、小さなクラブに出来ることは、極めて限定的なことです。地道な交流、支援を続けることにより識字率の向上や子供達の未来に資することができると確信していて、さらには国際親善や交流への一助になっていくことができるのではないかと思っています。

この小学校で学んだ子供達がやがて村を背負っていく頃になると、学んだことによって何かが良い方向に変っていくように思います。学ぶことによって生活環境や保健衛生環境、さらには次の世代への影響などに良い循環が構築できれば、クラブとしてもしあわせなことだと思っています。

平成 18 年３月 26 日

資料１　去る２月 26 日に開かれた国際奉仕委員長会議における経過報告

第 2620 地区　青少年交換小委員会
委員長　倉橋義郎

最初に私ども青少年交換小委員会の最大関心事であります分区内輪番号制についての報告をしたいと思います。そもそも分区内輪番制に移行していこうという考えの根底には当地区における交換学生の減少があります。その原因はロータリアンの数が年々減少していることや、高齢化にともない受入が困難になっていること等があげられます。しかしながら､いまや国際化がいたる国々で叫ばれ､年々その重要性が増しておりますなかで、当地区だけこうした青少年の交換事業を衰退させておくわけにはまいりません。そこで、本件の会議になったわけですが、昨年第１回国際奉仕委員長会議を行いましたので、今年で２回目ということになります。前回と同様、各クラブの今年度、次年度の国際奉仕委員長にその所属する分区ごとに集まってもらい、次年度のガバナー補佐がそれを統括して最後に総評を発表するという形式を取りました。分区内輪番制につきまして集約したものを以下に列挙してみます。

(山梨第１分区)　ガバナー方針として打ち出せば分区内輪番制に協力はするが、会長幹事会での検討も必要ではないのか。また、次年度からは分区で最低一人交換学生の受け入れ派遣を検討する。さらに分区内輪番制とは別に数クラブが共同で受け入れる件についてはどうなのか等の質問があった。

(山梨第２分区)　次年度から分区内輪番制に協力できるし、大いに賛成という意見が多かったように思う。当地区での最大の関心事は経費の点で、分区内輪番制ということになれば、他クラブや地区からの費用的な援助が得られるから、こうした事業を積極的に推進していけるという期待のほうが強かった。

(山梨第３分区)　分区内輪番制については賛成の声が強かった。そうなれば、今後分区で１名の交換学生を出すことができ、小クラブにも交換事業への道が開かれる。

(山梨第４分区)　当地区ではクラブ会員数が少ないクラブが多く、受け入れるにしても共同の受け入れになるが、分区内輪番制については当会への出席クラブが少なかった関係で結論が出せなかった。

(静岡第１分区)　当地区では過去に２回しか青少年交換事業の経験がなく、そのときの苦労話が出て、しかもホストファミリーが一人で一年間面倒を見たといった具合で、とても分区内輪番制までの話しはできなかった。

(静岡第２分区)　分区内輪番制に賛成３クラブ、反対４クラブ。次年度について協力はするが、分区内輪番制を地区から押し付けられてまでやるつもりはない。しかし、地区の助成金はありがたいし地区内での協力は嬉しい。

(静岡第３分区)　総論賛成、各論反対である。地区からの分区内輪番制を強制的に推し進めるのは大反対である。

(静岡第４分区)　国際奉仕委員長会議でこうした分区内輪番制を決定するのはいかがなものか。会長

幹事会もふくめてコンセンサスを得るべきではないのか。

（静岡第５分区）　次年度の分区内輪番制は不可能であるが、一応努力はしてみる。当分区内のクラブに分区内輪番制反対の声が多い。その理由として地区からこうして押し付けられる事業はやれないし、本来ロータリー活動は各クラブの自主性を重んじるべきものである。逆に、交換学生が減少しているならば青少年交換事業そのものを見直すべきではないかといった強硬な意見まであった。しかし、他のクラブが青少年交換事業をしているときは協力してもいいという意見もあった。

（静岡第６分区）　分区内輪番制には賛成であるし、そうでなくても、今後当地区からなるべく一人の交換学生をだすことに努力する。また、分区内輪番制が行われば、会員数の少ないクラブにも道が開かれるし、分区内で「次はどこ」「その次はどこのクラブが引受ける」かがはっきりわかり、自分のクラブは何年後に受ければいいかが認識できるから以前より準備しやすくなるのではないか。

（静岡第７分区）　直ちに分区内輪番制に移行は出来ないが賛成である。浜松クラブでは隔年に一人交換事業を行うことになっているので、空いている年度にどこかほかのクラブでやってもらいたい。中に会員数が少ないクラブがあるが、そうしたクラブ同士、またはより会員数の多いクラブとの合同で交換事業をしていくべきであるという意見もあった。またこうした事業は是非とも継続発展させていく必要があり、これをやめてしまったらロータリーの意味がない。

分区内輪番制については以上のような意見でした。これとは別に「受け入れ学生はお客様扱い」とか「必ずしも受け入れ学生は日本が第一希望ではない」といった意見や、「一年間滞在してもお礼の挨拶がないから地区でもっと教育すべきだ」とか「受け入れてみて金銭的な負担が予想外に多かった」といった意見もあったことを付記します。思うに、今年で２回目の国際奉仕委員長会議になったわけですが、全体的に一歩前進したように思います。それは一つに分区内輪番制という聞きなれない言葉が各クラブに認知され始めたこと、もう一つは各クラブの国際奉仕委員がこうして一堂に会してお互い意見交換することで他のクラブの意見や地区の意見を聞いたことで、分区内輪番制について啓蒙を受けたということです。

青少年交換事業は今後も続けていかなければなりませんし、今より後退させてはいけません。またそういう事態になれば、ロータリーの意味が大いに減じてしまうことになるでしょう。問題はこれを契機として、たとえ違った形になるにせよ何年後かに分区内輪番制を制度化していかなければならないということです。そうなれば派遣学生の公募が可能になるし、それによって派遣学生の質が向上し、ひいては受け入れ学生の質の向上へとつながっていくでしょう。さらには地区青少年交換委員の仕事が今のような交換学生を集めることから解放され、受け入れ学生や派遣学生に対する教育により多くの時間が割けられるようになり、そういう意味でより良い循環ができ上がっていくことにもなるでしょう。こうしたことが実現すれば、この事業は発展していけるでしょうし、ロータリーの目標の一つであります国際親善への道がより確かなものになっていくでしょう。

資料２　青少年交換プログラムアンケート　取組　１取組中　２来年度取組　３検討中その他

2006.2.26 国際奉仕委員長会議　　理由　①予算　②ホストファミリー　③学校　④経験なし　⑤その他

		取組			取組が３の場合理由					分区制について
	回答クラブ	1	2	3	①	②	③	④	⑤	
1	Ｙ－１－３			○		○				なし
2	Ｙ－２－２			○					○	Ｇ補佐・会長幹事会を中心に分区制で取組む
3	Ｙ－２－４			○		○				Ｇ補佐・会長幹事会を中心に分区制で取組む
4	Ｙ－３－４			なし	○	○		○		方法は様々あると思うが分区制の考え方には賛成
5	Ｓ－１－２			なし						数クラブが合同して受け入れる方法が良い
6	Ｓ－１－４			○	○					分区全体の会員が減少しており、分区内で良い方法を検討したい
7	Ｓ－２－２			○	○	○				基本的には良い
8	Ｓ－２－４			なし						中学生の交換研修を姉妹クラブとしている
9	Ｓ－２－７			○	○	○				
10	Ｓ－３－８			なし					○	
11	Ｓ－３－９			○	○	○				
12	Ｓ－４－７			○		○				受入が現在より容易になると思う
13	Ｓ－４－９			○					○	賛成　１クラブでは継続が困難でも分区なら当番時に頑張れる
14	Ｓ－５－１			○		○				受入が現在より容易になると思う
15	Ｓ－５－３			○					○	クラブでの取り組みをしているので現状維持で良い
16	Ｓ－５－４	○								大変良いと思う　受入学生は卒業生でなく在学生が良い
17	Ｓ－５－５			○	○		○		○	アイデアは良いが、実際の導入にはクリアーすべき問題点も多い
18	Ｓ－５－９			○	○					
19	Ｓ－７－１	○								１年おきの交換を実施中　移行には３年程度期間の旗振り責任者が必要
20	Ｓ－７－２	○								大変有効であると思う
21	Ｓ－７－３			○	○					分区で１人ずつ受入に賛成　公募にも賛成
22	Ｓ－７－４			○			○	○		分区全体のクラブが受入体制を整えることができれば良いと思うが、当初は一部のクラブになる
23	Ｓ－７－５		○							クラブ負担を少なくするよう地区での予算をお願いしたい
	合計	3	1	19	8	8	2	2	5	

84 クラブ

資料３　青少年交換事業に関する申し合わせ（案）

国際ロータリー第 2620 地区静岡第６分区

当分区は会長幹事会において、青少年交換事業について種々討議をした結果、この事業がロータリー活動として世界的規模での友好と平和の推進、地域社会に与えるインパクト、そして自クラブの活性化にとっても大変有用なものであることを認識し、これが発展的に継続されることを願って次の通り申し合わせた。

１．分区にて１年度に１クラブ以上の交換学生受け入れを行うよう努力する。
２．受け入れの順番は決めないが、全クラブが実行することが望ましい。
３．受け入れと派遣は必ずしも同一年度に行う必要はないが、両事業は一体のものである。
４．事業実行を容易にするために、次のことを行う。
　１）受け入れクラブの資金負担を軽減するために、分区内に青少年交換基金を設ける。基金の内容は下記の通り。
　　①　各クラブ会員１名に付き 1000 円の人頭分担金を毎年拠出する。
　　②　基金の名義人及び管理責任者は当該年度ガバナー補佐とし、毎年度末にその収支を会長幹事会に報告する。
　　③　会員数は期首会員数にて計算する。
　　④　受け入れクラブに対し基金より一定額の補助金を支給する。支給金額については、当該年度の会長幹事会で決める。
　　⑤　基金を中止し清算する場合はその処理を当該年度の会長幹事会にて決める。
　　⑥　基金の拠出は 2005 ～ 2006 年度より実施する。
　２）受け入れクラブの諸々の負担を軽減するため（例えばホストファミリーの提供等）、協力して事業の実行に当たる複数のクラブと提携することができる。

平成 18 年３月 15 日

新世代部会

アドバイザー・パストガバナー	髙崎　博次（富士宮）
リーダー・次期新世代委員長	野﨑　行廣（甲府南）
サブリーダー・次期インターアクト委員長	深澤紗世子（甲府シティ）
サブリーダー・次期ローターアクト委員長	長尾　正明（浜　松）
サブリーダー・次期青少年育成委員長	隈部まさる（甲府シティ）

報告者名：野﨑行廣（次期新世代委員長）

協議事項

⑴ 次年度計画の説明及び確認について

ＩＡ小委員会、ＲＡ小委員会及び青少年育成小委員会の各委員長より、資料に基づいて次年度の委員会計画についての説明及び確認がされた。

⑵ＩＡＣ及びＲＡＣの会員及びクラブ増強について

・ＲＡＣについては、以前は数十クラブが活動していたが、現在は８クラブとなっているため、会員やクラブの増強が従前から叫ばれているが、まず第一しなければならないことは、それらのクラブがなくならない様にすることで、ロータリアンの子息や社員でロータリーに興味のある者に、例会見学などをさせていくことが必要である。
・ローターアクターは、将来ロータリアンになることが勧められているが、実際はギャップがかなりあり、そのための流れが出来ていない。
・ＩＡＣ及びＲＡＣの活動に対しては地区から資金が支出されているが、ＩＡＣ及びＲＡＣを持っていないロータリークラブについては、それらの活動に対しての関心が薄いため、各クラブにおけるＩＡＣ及びＲＡＣの活動に対する意識を高めていく広報活動が必要である。
・ＲＡＣの会員増強に際して、オイスカの植林事業がアピールポイントになっているクラブがある。
・ＩＡＣ及びＲＡＣのあるロータリークラブでは、定期的にアクトのメンバーをロータリーの例会やその他行事に出席させ、絶えず交流を図る。
・ロータリーとＩＡＣ及びＲＡＣのかかわりについて、単に金銭面の助成をするだけでなく、それらの活動を把握し、協同することが重要である。

⑶ 青少年育成委員会について

・学校評議員となることについては、学校側が指定してくるものなので、現実問題とすれば難しい。
・青少年育成については、多くのクラブで委員会名称は異なるにしても、青少年奉仕に関する活動を行っており、各クラブの大小や実情に合わせてクラブ及びロータリアンとして出来る活動をしていくことが必要である。
・ロータリアンが地域の学校でガバナー会が推奨する職業指導や講師を行うためには、日頃から学校との係わり合いを深め、職業人の集まりであるロータリーであれば対応が可能な旨、ＰＲしていくことが重要である。

報告事項

・南アルプスＲＣでは、昨年白根高校にＩＡＣを創立し、活動を始めている。
・浜松北ＲＣでは､インターアクトを対象にボーリング大会や年間行事を通して交流を図っている。
・北杜ＲＣでは青少年奉仕に関する事業として、小学生対象のミニバスケット大会、中学生対象の新人球技大会、高校生対象の東南アジアの植林事業、青少年対象のミニ駅伝大会への助成や協力活動を行っている。
・甲府南ＲＣでは、インターアクト、ローターアクト及びボーイ・ガールスカウトによる協同事業（甲府舞鶴城公園の植栽事業）を行っている。
・浜名湖ＲＣでは、三ケ日高校と協力して、炭素繊維を用いた浜名湖の浄化プロジェクトを推進している。

要望事項

・青少年育成委員会で、青少年奉仕活動の現状把握のためのアンケート調査を行うので、早期回収のため、各クラブの青少年奉仕担当委員会のご協力をお願いしたい。

ロータリー財団部会

アドバイザー・パストガバナー	渡邉　脩助（三　島）
リーダー・次期ロータリー財団委員会副委員長	和久田健司（浜　松）
サブリーダー・次期奨学金委員長	中込　　徹（甲　府）
サブリーダー・次期補助金委員長	梶原　信行（河口湖）
サブリーダー・次期年次寄付・恒久基金委員長	池谷　貞悟（浜　松）
サブリーダー・次期研究グループ交換委員長	大村　義之（甲府南）
サブリーダー・次期ロータリー財団学友委員長	網倉　義久（石　和）

報告者名：和久田健司（次期ロータリー財団委員会副委員長）

開会挨拶（R財団委員会委員長　渡邉脩助）

ロータリー財団の活動はロータリーの活動の重要な部分を担っている。しかも財団寄付があって始めてロータリー財団の活動が出来る仕組みである。ロータリー財団の活動内容を先ずは良く理解して欲しい。財団寄付の目標をＵＳ＄100に引き下げたので全員が目標を全うし、全ての84のクラブが100％達成の表彰を受ける様にして欲しい。次年度ＤＤＦは50％になり財団の活動も厳しくなる。大変だが宜しくお願いする。

議事進行（R財団委員会副委員長　和久田健司）

配布した資料は添付のロータリー財団と左肩に記載のある資料。

ロータリー財団の活動は教育的プログラムと人道的プログラムの２本柱で成り立っている。国際親善奨学金と研究グループ交換の事業が教育的プログラムを構成しており、またマッチング・グラントと地区補助金の事業が人道的プログラムを構成している。当地区と世界のロータリーとが繋がっているのがロータリー財団のプログラムでロータリーの大きな柱である。

年次寄付・恒久基金の説明（年次寄付・恒久基金小委員会委員長　池谷貞悟）

添付資料に沿い寄付金の流れの仕組み、配分、行方の説明を行なった。次年度は一人当たりの寄付目標をＵＳ＄120からＵＳ＄100に減額したが、地区の全員が少なくともＵＳ＄100は寄付して欲しいと言う意味で、寄付金額を減らしても良いと言う事ではない。要は全員にＵＳ＄100を最低額としてより多くの寄付をお願いしたい。

国際親善奨学金の説明（奨学金小委員会委員長　中込徹）

添付資料奨学金の内容を説明した。過去この制度を利用し2620地区より多くの若者が海外の大学で学んで来ている。１学年度の国際親善奨学生の場合の支給額はUS ＄26,000、マルチ・イヤーの場合の支給額は年間US ＄13,000。受験資格は大学２年終了。2006 － 2007年度の募集人員は７名。

研究グループ交換の説明（研究グループ交換小委員会委員長　大村義之）

添付資料の内容を説明した。2006 － 2007 年度の交換相手は第 4430 地区ブラジル国サンパウロ市ベルダーテ地区。ブラジルチームの受入期間は 10 月 28 日（土）～ 11 月 26 日（日）、当地区のチームの派遣期間は来年５月１日～５月 31 日。　先行する受入の計画を説明し協力をお願いした。

補助金及びマッチング・グラントの説明（補助金小委員会委員長　梶原信行）

申請の為のプロジェクトの要件、プロジェクトの募集、補助金を受けたクラブの義務、補助金支給額、補助金の予算、申請及び選考方法に就いて説明した。マッチング・グラントに就いてはプロジェクトの要件、2005 － 2006 年度の当地区の実績、申請書フォーマットの入手方法に就いて説明した。

山静学友会の説明（財団学友小委員会委員長　網倉義久）

添付資料を配付し学友会の性格、活動の内容を説明した。卓話に学友を呼んで欲しい旨のお願いをした。

質問と回答及び要望

① 税控除が適用される寄付金額のハードルを下げて、少額寄付でも税控除が受けられる様にして欲しい。

回答：今までもその方向で国に働き掛けて来ている。今は 20 万円以上が対象であるが、以前は 30 万円以上でなければ控除を受けられなかった。

② 奨学生の選考において親の収入が考慮されているか。

回答：申請書類を受け付けた段階で考慮されているが、留学先の学費もまちまちで奨学金の規模で留学に必要な費用が全て賄えられると言う具合でも無いことを理解してほしい。

③ 補助金を弾力的に運用出来る様にし災害援助など突発的な出来事にも使える様にして欲しい。

④ 寄付金の費用対効果はどうか。

回答：教育的プログラム、人道的プログラムは直ぐに数値で計れる成果を求める性格のものではなく、10 年先、20 年先、30 年先の長きに亙り教育的あるいは人道的成果や貢献を目指している。

米山記念奨学会部会

アドバイザー・パストガバナー	勝山國太郎（静岡東）
リーダー・次期米山記念奨学会委員長	秋山　仁博（甲　府）
サブリーダー・次期米山記念奨学会副委員長	渡邉　富夫（長　泉）

報告者名：秋山　仁博（次期ロータリー米山記念奨学会委員長）

アドバイザー　勝山國太郎パストガバナー挨拶

ガバナーを終えて７年目になり、昨年より高野パストガバナーの後を継いで米山記念奨学会の本部理事に就任しましたので、少しでも皆様のお役に立てればと思い、アドバイザーとして米山記念奨学会の全体的な話をしたいと思います。昨日、本部より郵送して来た定期報告によりますと、３月 31 日現在で寄付金は、一人当たり 9,846 円となっており全国 34 地区の内 21 番目に位置しています。全国平均より若干下位ではありますが、最終的には地区の目標は達成可能だと思います。また日本全体としての寄付総額は、2000 万円程増加しています。これは、各クラブの委員長さんの努力で米山記念奨学会への理解がより深くなった結果だと思います。これからは、委員長さんを始め、各クラブの会長さんにも積極的に活動して戴きたいと思います。本日出席の委員長さんの中で米山奨学生の卓話を聞いた事のないクラブは有りますか？当地区は大学が一部地域に片寄っているので、離れたところのクラブでは、なかなか卓話を聞く機会がないと言う事ですが、担当委員長にお願いして、是非に皆様から戴いた奨学金が、どのように有効利用されている等の話を聞いたり、見て戴きたいと思います。それが寄付金の増加にも繋がると思います。特に当地区には、米山記念館も有りますので、東京の本部と 2620 地区の米山記念奨学会委員会と三位一体となって活動すれば、より多くの寄付金も集ると思います。米山奨学生の選考は、現在は大学からの推薦を主としていますが、新しい制度としまして地区よりの推薦制度も始まり、外国の地元で選考し来日して勉強するプログラムも検討されています。奨学生一人に年間 158 万円程掛かっていますが、当地区の寄付金が増えれば、奨学生の数も増えますので、本年は継続３名・新規 24 名の合計 27 名をお世話することになっており、前年度より寄付金が増えた結果、奨学生も増えました。本日ご出席の委員長さまには、各クラブに帰りまして、他クラブ等の活動状況の話を して頂きたいと思います。今年の選考の傾向は、中国からの留学生が多く感じました。

これからは、各大学との連絡を密にとって、出身国・学部等が片寄らない様に、広くアジア・世界からの留学生を推薦して頂き、それを我々ロータリアンが応援して行きたいと思います。

今後、私も本部での会議・諸報告等がある時は、種々の情報を皆様に伝え、記念館の有効利用も考えて行きたいと思います。

リーダー　秋山次期委員長

次期ロータリー米山記念奨学会委員長の甲府ＲＣの秋山です、宜しくお願いいたします。私もこの委員会に出向して３年目となり、米山記念奨学会について若干理解出来る所となりましたが、まだまだ勉強の足りなさを痛感していますので、勝山パストガバナー・井上エレクト・紀平委員長を始め経験豊富な皆様方に今後ともご指導をお願いします。まず始めに当地区に 出向されている委員会メン

バーを紹介します。副委員長の渡邉富夫会員長泉ＲＣ・時田資子会員静岡北ＲＣ・影山桓義会員沼津北ＲＣ・風間敬夫会員塩山ＲＣの計５名で静岡と山梨を担当しますので、宜しくお願いいたします。これから、地区の次年度 事業計画と、ロータリー米山記念奨学会の説明をします。まず第一にパストガバナーの話にもありました様に､寄付金の意義をクラブ会員に理解して頂く努力をお願いします。第二に米山奨学生と各クラブとの交流、具体的にはカウンセラーの選任・卓話の機会を設ける等々の推進役になって戴きたいと思います。本日は、皆様の手元に「米山奨学豆辞典」を配布させてもらいました。この「米山奨学豆辞典」は解り易く、良く出来ている評判の小冊子です。

是非お手元に保管されハンドブックとしてお使い戴きたいと思います。毎年最新版が発行されますので，10 月の米山月間等には、クラブ会員全員に配布して頂き、ロータリー米山記念奨学会への理解を深める道具にして下さい。今日は、この「米山奨学豆辞典」の内容に元付いて話を進めて行きたいと思います。最初のページは、米山梅吉氏の履歴と 1954 年に最初のタイからの留学生に始まり、現在までの 52 年間に 12,706 人の留学生までのロータリー米山記念奨学会の歴史が載っています。多くの奨学生が本当の日本を理解し、母国に帰り、世界に渡って日本の良き理解者となった歴史です。ロータリー米山記念奨学会の特徴としては、大学からの推薦を受けた留学生の中より選考するシステムで、これにより優秀な学生が集っており、今年度からは、専門学校にも門戸を開放してより多くの留学生を募集しています。寄付金の方法は２種類ありまして、一つは、普通寄付金と呼ばれる各クラブでの年会費の中より、一人当たりの金額 2,000 円～ 5,000 円を自動的に寄付をして戴く部分と、10 月の米山月間等に例会場でお願いしている特別寄付金と呼ばれる寄付です。

どうしても 10 月の米山月間に特別寄付金は集中しがちですが、本来は年度内なら何時でも、何処でも、幾らでも良いので、当委員会としましても、各クラブの記念事業･特別な例会･ゴルフコンペ･会員企業のお祝い事の時などを機会に、個々のクラブ会員に寄付をお願いして行きたいと思っています。また、特別寄付金は、税金からの控除も認められている事もＰＲして行きたいと思っています。井上ガバナーエレクトの 2006 ～ 2007 年の地区目標は、普通寄付金と特別寄付金を合わせて一人当たり 12,000 円となっておりますので、地区内 84 クラブ全部が達成出来ますようにご協力の程、宜しくお願い致します。次のページには、一年間で集る 14 億 4000 万円の寄付金の使い道が明確にされておりますが、収入より支出 の方が多く赤字になっています。これは、過去の基金や繰越を取り崩して補填しているからで、会員数の減少と共に寄付金額も減っているからです。「何時でも、何処でも、幾らでも、を合言葉に」米山梅吉氏の地元として一人当たり 12,000 円の地区目標を確保しましょう。寄付についての説明は以上にして、第２の米山奨学生については、協議会資料の 55 ページに当米山委員会の年間事業計画が掲載されています。11 月の初めに本部より各大学へ米山奨学生の推薦依頼が送付されますので、当委員会としましては、それに先立って、先ほど勝山パストガバナーの話に有った様に、出身国の片寄りの問題・米山奨学生に期待するロータリーの基本的な姿勢、例えば会員との交流の現状等々を大学の担当者と直接打合せして行きたいと思います。さらに、一回でも多くのクラブに奨学生の卓話を実施して行く考えで、10 月の米山月間に集中しがちなところを解消して、年間通して出来ればと思っています。

ちょっと極端な話ですが、他地区では、電車で２時間かけて卓話に行った事もあると聞いています。奨学生の殆どが、日本語の日常会話には問題ありませんので、バスで電車で各地のクラブへ出掛けて行き、卓話やクラブ会員と話をする事は何ら問題なく、奨学生本人にとっても貴重な体験となっているのが現状ですので、世話クラブ以外でも卓話の要請をお願いします。これもクラブ会員の寄付金への理解に繋がって行くと思います。来年度の採用人数は未定ですが、１月の終わり頃には選考試験をして、３月中頃には世話クラブを決定する様になると思いますので、世話クラブを希望する所は早めに手を上げて戴きたいと 思います。カウンセラーの決定後の５月頃には，奨学生の受け入れ・例会での取り扱い・奨学金の受渡し方法等々、細かい部分までのオリエンテーションを開催予定です。

ここで山梨の市川大門ＲＣの話をご紹介したいと思います。これは，紀平委員長宛に 奨学生を受入れたいとの希望が書かれた手紙です。「新年を迎え、益々厳しい寒さが続いています。さて私達、市川大門ＲＣでは、伝統的にクラブ財政が許す限り青少年交換事業を、国際奉仕・国際親善の柱として活動してきました。しかし、近年は会員の減少や財政難から 少人数クラブ故に、青少年交換事業

も数年に一度しか実施できないのが現状です。当クラブ では、今年度も交換事業の予定が無い事から、米山奨学生の世話クラブになる事も立派に国際奉仕・国際親善に貢献出来る事と考えて、既にクラブフォーラムや理事会の了解を得て山梨県内の米山奨学生の世話クラブを、引受けたいと思いましたので是非ご紹介をお願いします……」以上の様な内容の手紙ですが、留学生にとって世話クラブが県庁所在地に有るとか、例会場が駅より歩いて 10 分以内に有るとかではなく、心から喜んで受入れてくれるクラブに巡り逢えた事の方が大事だと思います。クラブにとっても受入れの経済負担は軽いので、より多くの世話クラブが登場する事を期待します。私はよく言うのですが、自分の子供程の年齢の若者と、一緒に昼食を食べながら話をする機会がありますか？そんな機会を作るのがこの事業です。ここで紀平委員長に、世話クラブ・カウンセラーについての話を聴きたいと思います。

紀平委員長

本年は、2620 地区の清水ＲＣの個人会員より、1000 万円以上の多額の寄付がありましたので、例年なら 15 名程の採用が、24 名と言う多数の採用になりましたが、次年度は元の数に戻るかと思いますし、先ほどの話の様に選考スケジュールが例年より早まりそうです。

特に、大学の無い地域のクラブにおいては、会員の理解が薄くなってしまう現状を変えて行きたいと思って活動をしました。世話クラブを選ぶ基準も、大学の近くか、住まいの近くにお願いしましたが、卓話はその範囲を超えて要請されても良いと思います。先程の話で、本部より世話クラブへ４万円の補助が来ますので、負担としては月一度の例会での昼食代だけです。現在静岡東地区に３名・浜松地区に５名・中部地区に８名、また山梨地区に８名をお願いしています。過去からの懸案事項としては、カウンセラー経験者の名前及び現役の元奨学生の動向等のデーターが残っていない事で、これを何とかしたいと思っています。

リーダー　秋山次期委員長

米山奨学生の果たさなければならない義務としては、積極的に卓話の機会を持つ事と、半年に一度の本部へのレポート提出となっており、何度も言いますが、各クラブの委員長さんは、７月のスタートから６月の最後までの１年の間に卓話の要請を是非お願いします。

例年の地区協議会で出る質問ですが、卓話の謝礼について本部では、図書券等の贈呈をする様にと言っておりますが、ここ最近は一律に足代を含めて一万円程の謝礼を用意するクラブが多いようで、あまり高額な謝礼は必要ないでしょう。そして、卓話の謝礼及び奨学金は、クラブ全員の善意ですので、堂々と例会場にて会員の前でお渡し下さい。

以上で私の説明は終わりとします。

質疑応答

Ｑ　都留ＲＣ

当地には大学があるので、度々世話クラブの依頼が来ます。本年は、隣接クラブが世話クラブとなっていますが、先程の話の大学の近くか、住まいの近くかどちらを優先しているのですか？カウンセラーは他クラブへの卓話の時に一緒に行かなければならないのか？

Ａ　リーダー　秋山次期委員長

山梨も甲府の一部と東と郡内、及び甲府の一部と西と南北の２つに分けて条件に会う複数のクラブにお願いしていますが、受入れ経験のないクラブに一番最初にお願いしております。

カウンセラーは、一年間通して一人で務める必要は有りません、月毎に変わるのはどうかと思いますが、米山奨学会のスタートは４月からで、ロータリーのスタートが７月からと言うギャップも有り、半年程度で変わるのは問題ないと思います。奨学生にとっても、より多くの会員と接する事が勉強になると思います。カウンセラー経験豊かな時田委員の話を聴いて見たいと思います。

Ａ　時田委員

以前カウンセラーを２回程経験した時の話ですが、韓国の女子学生は、日本人以上に美しい日本語を話して、卒業後は再度アメリカに留学しています。タイの女子学生は、博士号の取得を目指し

ていて、奨学金の支給が終了後も、半年間延長してクラブと本部より半額づつの支給を受けて見事に目的を果たしました。彼女は、現在タイで大学教授をしており、結婚式の目出度い席にも招待されて、親しくお付き合いが続いています。本年は、ロシアよりの奨学生の世話をしていましたが、卒業後に早稲田大学の大学院に見事入学出来た事が、自分の事のように嬉しく思います。

Q　三島西ＲＣ
現在、静岡東地区に３名お願いしている世話クラブの候補を教えてください。
A　紀平委員長
富士宮ＲＣ･新富士ＲＣ･沼津東RC･柿田川ＲＣです。学生は､日大が２名･富士常葉大学１名です。ちなみに 2620 地区には、29 校の対象校がありますが、今回 15 校より推薦書が提出されました。
A　アドバイザー　勝山國太郎パストガバナー
インドネシアの女子学生のカウンセラーを担当した時に、彼女が日本舞踊を習いたいとの 希望が有りましたので、先生を紹介したのですが、ただ一時的な興味だけで習いたいと言い出したのなら、先生に迷惑が掛かっては困ると思っていましたが、先生も感心するほど憶えも早く、さらに一度も欠席する事も無く、最後までまじめに練習した態度は本当に立派でした。
彼女にとっては、貴重な経験であり、米山奨学生の優秀さを改めて感じました。
台湾での話ですが、元米山奨学生が地元のロータリークラブに入会して、現在はガバナーとなって活躍しているとの事です。
A　リーダー　秋山次期委員長
この事業は、青少年交換などと違ってホームステイとか、観光旅行を一緒に行く様な事は有りません。プライベートのお付き合いも、学業に影響ない程度にと言われていますし、女子学生には、セクハラに注意するようガイド指導があるだけです。甲府ＲＣの奨学生は、例会時の座るテーブルを毎回変えて、より多くの会員と交流を持ってもらっています。

Q　浜松ＲＣ
卓話をお願いする時のコンタクト方法は？カウンセラーの資格は？浜松地区での奨学生は？
A　リーダー　秋山次期委員長
カウンセラーは、奨学生とクラブの間の連絡役的な存在ですので、米山委員会に所属していなくても、クラブのメンバーであれば誰でも、年度内に数人変わっても結構です。
世話クラブが決定しますと、当ロータリー米山記念奨学会委員会の委員が資料を保管しておりますので、何処のクラブでどこの大学の奨学生を世話しているかが解りますので、そのクラブを紹介する事が出来ます。日程等の打ち合わせは、個々のクラブの事務局又はカウンセラーを通して、本人との打合せになります。卓話は、現在勉強している内容とか、日本について感じた事とか、母国の紹介の話が多く、大体 30 分程度の内容となります。
A　紀平委員長
浜松大学１名・浜松医科大学２名・静岡大学浜松キャンパス２名です。

Q　山梨ＲＣ
奨学生が例会の卓話以外にクラブの事業､地域の事業に参加してもよいのですか？山梨地区の奨学生は？
A　リーダー　秋山次期委員長
奨学金を渡すだけでなく、学業に障害にならない範囲で例えば、納涼例会・家族親睦例会等には積極的に同伴して下さい。地域のボランティア活動への参加にも声を掛けて結構です。それもロータリーのＰＲとなると思います。また、本部にて奨学生に不測の事態が起きても安心の様に保険にも加入しています。都留文科大学１名・山梨大学４名・山梨英和大学１名・山梨学院大学２名です

最後に、この会が無事終了できました事を、勝山パストガバナー及び参加して頂きました 会員の皆様に感謝申し上げると共に､この奨学金で勉強した学生が素晴らしい国際人として活躍出来る様に､我々ﾛｰﾀﾘｱﾝが協力出来る事を喜びとして、一年間頑張りたいと思いますのでご協力を宜しくお願いします。

新会員部会

アドバイザー・パストガバナー	高橋　堯昭（吉　原）
リーダー・次期拡大・増強副委員長	望月　和恵（富士宮）
サブリーダー・次期地区財務委員長	氏原　　勲（甲府南）

報告者名：望月和恵　（次期拡大・増強副委員長）

氏原　勲サブリーダーのあいさつ

皆様に今日　『ロータリーの基本知識』をお配りしています。これは、出席の義務、クラブの奉仕プロジェクトへの参加会員の勧誘など、ロータリー会員の責務について書かれているものです。次年度の財務委員長という立場から話をさせていただきますと、会員増強は大変重要でして、皆様の会費の中から一人 18,600 円を地区資金として出してもらっていますが、18,600 円×会員数が地区の活動資金となります。次年度は 3,700 人の会員で予算を立てており、会員数を維持拡大していく必要があります。ぜひ、退会することなく、新会員ひとりが一人の会員を増やしていただきたい。そして次々年度にはクラブの何かの委員長として地区協議会に出席しロータリーを楽しんでください。

「地区大会」では又皆様とお目にかかれるよう、期待しております。

高橋　堯昭パストガバナー

私は、今年 80 歳になりますがお蔭様で、ロータリーのあちこちのクラブから呼ばれて話に行っております。つい先だっても、洲本のクラブの 50 周年で話をさせてもらった時、静岡弁丸出しでしゃべったのによく話を聞いてくれて、しかも最後の 5 分間しか真面目な話をしなかったけれど、みんな喜んでくれた。今日もそんな調子でやりますから、せいぜい食後の娯楽の時間のようなつもりで聞いて下さい。

あなた方新会員はロータリーにとって「金のたまご」でございます。

これについては 11 年前ガバナー研修でアナハイムへ行った時、「卓話」のサンプルとしてこんな話をしました。

私の友人で登山家が 5,000 メートルのヒマラヤへ行っていたので、丁度チベット仏教の経典を探したいと思っていた私も一緒にそこへ参りました。ひとつの部落から次の部落へ行くには 5,000 メートルの山を越えて行かなきゃならない様な秘境です。旅館もない所で、泊まるのは村長の家。ところが、夜になるとその友人のところへ、その家のおばあちゃんから娘までやってきた・・・。長い間近親結婚を繰り返した為に障害児が生まれるので、外部の“血”を入れるための生活の知恵であります。

・・・・と言う様な話をして、我々ロータリーも新しい考えを持った新人、フレッシュな“血”を入れなければダメだよ。だから増強が大事だ！と・・・。初めはみんなビックリしたようだが、うけました。

新会員は新しい“血”なんです。我々のような 30 何年のベテランもあなた方のような新人もロータリーでは平等なので、堂々と自分の考えを述べて頂きたい。それがロータリーの発展につながることで御座います。

ロータリーの 4 大奉仕の“社会奉仕”ですが、お金を寄付するだけではだめなんです。汗かく奉仕をしなければ・・・。

焼津のロータリーでは、日曜になると駅前の掃除をしている。大きな会社の偉い社長さんが掃除をしているのを市民が見て、「ロータリーってたいしたもんだねえ。あんな偉い人でもほうきを持って奉仕している。」と、非常にステイタスを上げた。お金で解決するのはダメ、やっぱり我々の体で、知恵で、やらないとだめなんです。これについては、私も昔、失敗したことがありました。

私の寺にセイロンの坊さんが修行に来ていたことがありました。そのとき、セイロンの仏教と日本の仏教とは違うから仏教の事を教えるより、野菜作りなど日本の農業を体験してもらって帰したほうが良いと思った。そうすれば、セイロンに戻ったらかえって役に立つかなと、知り合いの篤農家にたのんで手伝わせてもらった。そのうち、耕運機等も使えるようになり、野菜作りにも慣れ、いよいよ帰るときになって、耕運機を持って帰りたいということで、あちこち跳んでまわって、いいのを見つけて持たしてやった。ついでに洗濯機もお母さんに、と近所の人たちがプレゼントしてやった。

ところが、３年経ってインドの帰りにセイロンへ寄って、さぞセイロンの農業も発展したかな・・と彼のお寺へいってみた。立派な金の仏様の脇に、私がやった耕運機がリボンを掛けて祀ってあったには驚いた。なぜだって聞いてみた。「労働は卑しい者がやるもので、坊主が日本でそんな事をしたと判ると、尊敬しないから教えることが出来ない。」洗濯機は、電気がきていないから使えない・・と。日本のＯＤＡもこんなものか、とも思いました。

“物”ではダメなんだ。我々の心でないと、汗する奉仕でないと。

“知恵のある人はアイデアを、暇のある人は時間を、お金のある人はお金をだして”これがロータリーの奉仕なんです。

新会員はフレッシュな感覚で、フレッシュな意見を堂々と述べていただきたい。それが特権であり義務でもあります。

年会費もたくさん払っていますから、それを取り戻すような気で周りのロータリアンを見て、良い所をまねてみてはどうですか。以前、富士ＲＣのメンバーとゴルフに行った時、ある会員がチョットした事でもキャディさんに「ありがとよ。ありがとよ。」と言ってるのを見て、私も見習ってやってみた。そしたら対応も違うし、「さすがだね」と言われたりもしました。

こんな事もありました。藤山一郎さんて往年の歌手がロータリアンだったのをご存知の方は多いとおもいますが、その藤山さんにある旅館のお風呂場で会った。彼が風呂場から出て行く時、洗い桶と腰掛を丁寧に洗って片付けるのを見て、それから 30 年間、私も続けています。自分が使う前に洗うのは誰でもするけど、使った後洗って片付けて行く人は少ない。気づかない方も多いが、目明きもいました。学生を連れて宿泊したとき、学校の総務さんが見ていて「あなた方は、あんな良い先生に教わっていていいですね。」と生徒に気づかせてくれた。しかもその後、学校で「何よりも、お坊さんとしての“行”を生徒に教えて欲しい。」と羊羹までもらって、誉められてしまいました。

例会に出て、他人の良いところを学ぶ、生涯学習の場として活用する。これがクラブ奉仕です。

それから、さっき話しにあった、メイクアップ。これもいいもんです。私は外国へ行く時、例会をやっているホテルに泊まることにしている。ところが、インドで予定の飛行機が飛ばなくて、予約したホテルでメイクが出来ない。困ってあちこち探したら、あった！ロータリーのマークのついた看板のあるホテルが。案内されて部屋に入ったら、「ガバナー会だから駄目だ。」と言われたので「20 年間の出席率 100％が途切れてしまうから。」とお願いしたら、ターバンまいた偉そうな人がメイクカードにサインをしてくれた。

また、イタリアで夜の例会場へいったら、そこが公爵の別荘で、泰西の名画やシャンデリアのすごいのがあって驚いた。このバッチの威力はたいしたもんだよ。皆様も権利を使って、外国へ行ったらぜひ何処かでメイクしてみて下さい。それから、メイクした時、お医者さんの名刺を貰っとくと、これが旅先でお守り代わりになる。

と言うのは、私が東欧諸国を 20 日位旅行したとき、ハンブルグの例会で京都大学へ留学したことがあるというお医者さんと名刺を交換した。その夜、シャワーを浴びていたら、血管が真っ黒なのに気がついた。さあ大変と、次の日にそのお医者さんに連絡してみてもらった。検査したけどどこも悪くない。東洋人特有の病気ではないか、早く帰国した方が良いと言われた。ところが、私がこの数日間どこも食事がまずくてアメリカンチェリーばかり食べていたのが原因と判り、皆で大笑い。旅を続け

る事ができました。本当にこの時は、つくづくロータリーに入っていて良かったな、とおもいました。
会費を惜しいなんて思わないで、例会に出て、親睦を深め、人脈を広げ、お互いに利用しあい大事にする。“愛”を持って人と付き合い行動する。このロータリーの精神を会社や家庭に取り入れ、実践すれば企業も家庭も長続きするでしょう。
インドでこんな事がありました。その年は雨が降らなくて、ガンジスの支流の川の水が干上がって所どころの水溜りに魚が集まって、手でも捕まえられるほどだった。近所の百姓が集まって、大きい魚はドラム缶へ入れていたのを見て、私は町へ持って行って売れば少しは生活の足しになるだろう‥とおもった。ところが、通訳してくれた学生の言うには「あれは売るのではなくて、適当な大きさのオス・メスをドラム缶へ入れて、ガンジスの本流へながしにいく。」と、８キロも先のガンジスへ牛車では一日掛りで行く。２年、３年の先を考えて、そうするのが不文律だそうです。“根絶させない”そういう英知がインドにはあった、とあの木村建設に教えてあげたかったね。
何事にも愛情を注いで　企業も長持ちしなければ駄目です。
私のたった一つの趣味があります。トイレ掃除の人に「おばさん、ごくろうさん。お陰で気持ちよく使える。ありがとよ。」必ず声を掛ける。ある時、三越のトイレでいつものように労いのことばをかけたら、その人は最敬礼をして「お蔭様で、我々の仕事の意欲がわきます。」こう言ったよ。これがロータリーの“職業奉仕”だよ。お金を出すだけでなく働く人を激励する奉仕、優しい言葉を人々に掛けていただきたいと思うわけです。
私の寺での七五三の日の事、賑わいが一段落した頃、80 過ぎの老夫婦が３歳ぐらいの子を連れてお参りにきた。お孫さんですかと聞いたら、アパートの隣に住んでいた子で、事情があって両親がいなくなってしまい施設へ入れるというので、生まれるからずっとなついているその老夫婦が預かっているのだという。“幸”薄い子なので毘沙門さんでお払いをしてもらいたいけど、生活保護を受けている身ではたいした晴れ着も買ってやれないから、ほかの子とかち合わないように時間をずらして来た。でも子供が喜んではしゃいでるのを見てよかった。なんて話を聞いて、家族皆、感激してしまった。私も一生懸命その子と老夫婦の為に祈り、たくさんあった頂き物をプレゼントした。帰りがけに、年寄りが「私は子供に縁がなかったが、この子を預かって、愛情を与えることがこんなに生きがいになり幸せになる、と初めて知りました。」この言葉を聞いて、これこそ“ロータリーの奉仕”だと思いました。喜捨とか布施とは、金持ちが金や物をくれるではなく、自分が幸せだな、恵まれているなと感じ、この位出してもいいなと思って出すのが喜捨であり布施なんです。
世界には 10 人子供を生んでも一人しか育たないような地域がある。財団で集めたお金はそういった人達を救う為に使われるわけで、我々はそれを出したからといって生きていけるし、出来る人は気持ちよく、出来るだけのお金を出していただきたい。
そういうロータリーの精神を生かして　皆様が活躍される事を願い、本日の話を終わりに致します。
ロータリーライフを楽しんで下さい。エンジョイロータリー！！

質疑応答

富士宮ＲＣの市川会員から「ロータリークラブとライオンズクラブの違い」についての質問がありました。高橋パストガバナーは自分が同じ時期に両方のクラブから誘われた時の体験から、“奉仕”についての考え方でロータリークラブに入会した経緯とロータリークラブは“職業奉仕”が第一である事を話されました。
静岡日本平ＲＣの望月会員からは、クラブ内で女性会員が一人の為、服装についての質問でした。高橋ガバナーは、「服装については、もっと自由でいいのでは」と。望月リーダーは、「其の時々の雰囲気に合っていれば、自分らしく装うことで自分が楽しみ、周りも違和感を感じないで楽しめる。」とアドバイスしました。

事務局員部会

リーダー・次期 IT 推進委員長	依田　訓彦（甲　府）
サブリーダー・次期地区副幹事	大木　勝志（甲府南）

報告者名：北條　正（次期 IT 推進委員会委員・甲斐RC）

依田リーダーより下記事項の説明（スライド利用）

① 2620 地区における IT 推進の経緯
② 2004 － 05・2005 － 06 過去２年の実績と地区の現状
③ 2006 － 07 活動方針と概要
④ 具体的ホームページ画面と利用概要
⑤ IT 利用の具体的効果

説明についての質疑応答

Q　韮崎 RC：各クラブがホームページを確認したかどうか、ガバナー事務所事務局にわかるのか？
A　確認はできません。今年度このシステムを活用するかしないかを事前に選択をしていただきます。活用するクラブでは常にホームページのチェックを行っていることが前提となります。

Q　富士・新富士・富士宮西 RC：先日パソコンは導入されたが、使い方がよくわからず、週一回の勤務ということもあって活用する自信がない。
A　まず貸与されたパソコンはサポートが附属していますのでそれを活用しパソコンの設定等を行ってください。本来このシステムは、RC 会員自身が取り組むべきものであります。ロータリアンと事務局員とで連携をとり IT 推進にご協力ください。１～２年かけてクラブ内で検討しながら実現していってほしい。

報告事項

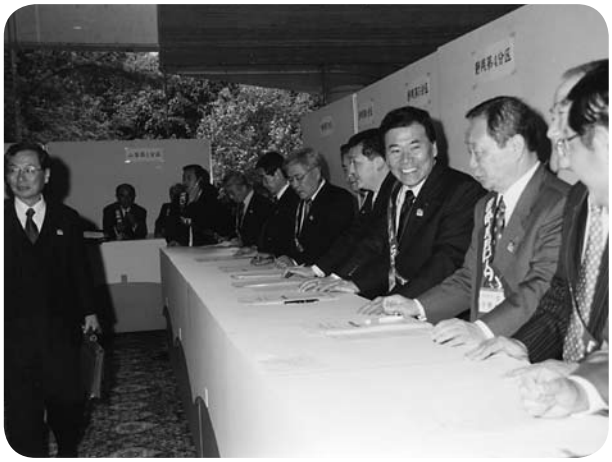
井上年度ガバナー事務所事務局　鈴木さん（甲府南 RC）より
・クラブ運営実務の手引きは、基本的に変更はない。
・財団振込先は金額によっても変わるので必ず確認すること。
・国際大会信任状
　① クラブより代議員選任の場合：各クラブごとに持参すること。
　② 委任状による代理者が出席する場合: 5 月 31 日までに井上ガバナーエレクト事務所必着のこと。
・RI ホームページの会員アクセスページへの ID について
　現在は、各クラブ会長・幹事の ID を使ってアクセスしていると思うが、本来は不可である。今後、各クラブ事務局へ正式なアクセス権を交付する予定である。
・関連資料データが入っている CD － ROM は、各幹事へ送られているはずなので確認のこと。

地区内クラブ、あるいは分区に対する要望事項

今年度、WEB・電子メールを活用するか、活用しない（従来どおりの事務処理）か、各クラブにアンケートをとる予定なので協力をお願いしたい。

地区協議会 Photo

JAPAN



2005～2006年度
第2620地区 地区協議会
ROTARY CLUB
率先しよう
KOFU-SOUTH
JAPAN
超我の奉仕

LEAD THE WAY
率先しよう
ROTARY CLUB
KOFU-SOUTH
JAPAN
超我の奉仕

～米山梅吉記念館から～

理事長　内藤成雄

米山梅吉記念館は、わが地区静岡県東部長泉町にあり、米山梅吉翁の出身地であることはご存知の通りです。昭和44年に全国及び地区の諸先輩のご努力で旧館を、平成10年に新館の落成を見、以来全国的な視野で認識されるまでに発展。現在は地区内はもとより、全国の各クラブから移動例会、見学研修訪問等の御利用を頂いております。とは申せ、入館料は無料であり、その維持運営は全額会員の善意の寄附によって賄れております。その中で最も大きいものは本日お手許の資料でもご覧頂けるように、わが地区資金からの助成です。今迄は会員一人1,100円×人数（年間）を基準としてきましたが、会員数減少等の非常処置により苦しい中から450万の助成を先般の諮問委員会上でも予算化して頂きました。記念館の重要性に配慮したガバナースタッフの御配慮です。この外、米山記念館奨学会、神奈川２地区、クラブ周年行事寄附、賛助会費、全国のロータリー会員に呼びかけておる一人年間100円募金運動に頼っておる現状であります。

問題点とお願いを数件申し上げます。

1）　日本のロータリー組織には米山を冠名とした財団法人が二つあります。一つは米山梅吉記念奨学会と、もう一つは当米山梅吉記念館です。この二つの法人は規模の格差があり、各々法的には独立した法人で、記念館は被助成機関ですが奨学金の附属機関ではありません。
少しづつお分かり頂いておるようですが、まだそう思っている方が多くおられます。

2）　日本のロータリークラブには殆んどに米山委員会がありますが、その委員会の使命は米山奨学会関係の仕事だけだと思っているのが大部分です。館報でも常にお願いしておりますが、クラブの米山委員会に米山記念館の仕事も加えるよう是非にお願いいたします。

それに関連して特に重ねて本日ご出席のガバナー補佐、クラブ会長、米山委員長の皆様にお願いがございます。特にガバナー補佐の皆様は期間中、できれば前後期に分けて所属全区のクラブ、特に新入会員に対し年一～二回、館を訪問するようお取りはからいを願いたいのであります。
館には春・秋の例祭がございます。この機会等を利用し館を訪れ米山翁を学び、米山精神を研修して頂きたいのであります。

日本のロータリー黎明期の大先輩。日本のポール・ハリスにも比すべき米山梅吉翁を学べる施設は全国を見てもわが地区にある米山記念館だけであります。これはわが地区にある富士山と共にその価値を受け継ぎ、後世に伝えるわが地区の誇るべき使命と確信しております。

昨年秋の例祭に於いて米山奨学会の宮崎理事､宮内監事をお招きして開いたシンポジウム「還ろう・米山梅吉の原点に」でも、奨学会と記念館の相互理解、利用を確認し、記念館は単に米山翁を記念する博物館でなく、更に研修施設として利用発展させていこうと話し合ったところであります。

過密なスケジュールの中、この様な貴重な時間と機会をお与え下さったことを重ねて感謝いたします。何卒よろしくお願いいたします。

「ロータリーの友」について

小林聰一郎　　ロータリーの友委員会常任委員

地に足をつけたクラブの活動や、私たちのクラブが集合体としてのRIの一員として、世界120万にも及ぶロータリアンと手を携えて活動していることを実感できるのは何によってでしょうか。日本においては「ロータリーの友」誌ただ一つです。

その「友」誌が、どのような環境で作られているのかというお話をさせていただきます。

創刊は今から53年前、1953年、昭和28年の一月号です。それまで日本は一つの地区でしたから一つのガバナー月信で日本中がカバーできていましたが、それが２つになって西と東に分かれるような状況の時でした。別れる寂しさと新しく動いていく期待とが入り混じった雰囲気でしたが、その中でお互いに情報を共有しよう、日本全体の連帯感を失わないでいこう、ということで機関誌の発行が計画されました。東京、横浜、京都、大阪、神戸クラブなどから委員が出て、議論の結果、編集委員は合議制とし東京で発行する、定価は50円とするが広告をとって100円の価値あるものにする、名前は「ロータリーの友」とするなどの合意を得て、昭和28年１月に第１号が発行されました。1972年から縦組、横組みになり、創刊から27年後の1980年、昭和55年にRIの公式地域雑誌として承認されました。公式に承認されたことにより編集上の細やかな制約とともに「THE ROTARIAN」誌か「ロータリーの友」誌かのどちらかを購読しなければならないという義務も課せられました。ここから「友」誌は、RIの指定記事を掲載するロータリーの機関誌としての一面と、創刊当時から引き継がれてきた日本における会員相互の交流と情報交換という、いわば同人誌としての一面を合わせ持った雑誌として「横組み記事に学び、縦組の構成に参画する」雑誌としてお手許に毎月届けられてきました。

編集については編集者にロータリーの基本的枠内においての自由が認められていますが、委員会の適切な監督を受け入れなければならないと決められています。日本においては「ロータリーの友委員会」がその任務に当たっています。この委員会は委員長、副委員長、特別顧問、顧問、常任委員、地区委員、所長、編集長で構成され、今年１月からは南園、重田両現RI理事にもお加わりいただき万全の体制を整えました。

地域雑誌における日本での特徴としては、地区委員の存在があります。「友」誌は日本34地区ガバナーの委嘱により委員会が発行していますからガバナーの意向が反映されなければなりませんが、ご多忙ですので地区委員がガバナーの代理を務める仕組みになっています。年に４回、34地区の情報共有と交換という観点から全国から東京にお集まりいただき合同会議を開き、また毎号を読んでのレポートをお書きいただいています。

さらに重要なことは各クラブにおいての雑誌解説の時間です。これは日本における素晴らしい仕組みの一つで、これが機能することによって機関誌としての実効性が上がりますので、各クラブ、月の最初の例会において必ず雑誌解説の時間をお取りくださるようお願いいたします。この編集発行からクラブの雑誌解説までのしっかりとしたラインは、日本の優れたシステムとしてRI理事会においても世界雑誌編集者会議においても高い評価を得ています。

「友」誌はRIに公式に認められているという意味の大きさ、つまり日本における公式なロータリー情報の唯一の窓口であるという責務を深く認識しながら編集しております。印刷媒体と電子情報媒体、Webも地域雑誌に含まれると規定されていますので、その責任の一環として印刷媒体とデジタルとの棲み分けの中でホームページを制作運営しています。ここでは国際協議会や世界大会の行われるマルメーコペンハーゲンの様子などもご覧いただけますし、国内各クラブのホームページ、RIの日本語公式サイトにも入っていけますのでご活用をお願いいたします。

昨年各地区委員が行ったアンケート結果でも、精読しているという方、ぱらぱらと読んでいる方で90％を少し超えた数字になっています。自分たちのクラブ活動や自分の考え方も独善に陥ることなく相対化できるツールとして、またロータリー的に学び考え行動するためにも「友」誌はみなさまの傍らにいつもある役立つテキストではないかと思います。

若い世代がまた本を読みはじめていると言われています。情報を自ら蓄え、分析し、読み深めるといった印刷された文字の持つ力が再評価されてきています。「友」誌を作らせていただく立場として、親しみやすく読みやすく、さらには文字の力が持つ特性を実感していただける『豊かな友』誌となるよう、努力を重ねてまいります。次年度のクラブ運営のためにもぜひ「友」誌の活用をお願いいたします。